

| 科目区分 | 基礎分野 | | 教育内容 | 科学的思考の基盤 | | |
|----------|--|----|-------|---|--|--|
| 授業科目 | 医療と情報 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 小田まり子 (大学教授) 佐塚秀人 (大学准教授) 東 大輔 (大学教授) 新井康平 (大学客員教授) | | | | | |
| 授業目的 | 情報通信技術 (ICT) の著しい進展により、医療・看護現場でも、医療情報システム、医療データや医用画像データ管理データベース、遠隔医療、IoTを活用したヘルスケア、AIによる医療診断、医療ロボットなど、ICTや先端技術の活用が進む。本科目では、情報化社会に適応できる医療人として必要不可欠な情報処理に関する基礎技術を修得するとともに、医療分野への情報技術・工学・AIの応用事例を体験し、現在の革新的な医療・看護の発展について実践的に学ぶ。 | | | | | |
| 授業目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職としてふさわしい情報活用のための基礎能力を身につけ、情報の検索・閲覧・収集ができる。 2. 文書作成ソフトやプレゼンテーションソフトの基本操作ができる。 3. 表計算ソフトの基本操作ができ、看護師に必要なデータ分析の基礎技術を修得している。 4. 医療・看護分野での先端技術 (AIやIoT (Internet of Things)) を用いた応用事例について説明できる。 5. 情報技術や先端技術を活用する上での倫理や安全性について理解している。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 備 考 |
| | <p><前半：情報リテラシー></p> <p>第1回：コンピュータ・インターネットに関する基礎知識 ・基本ソフトの役割 ・プログラムの起動と終了・ファイルとフォルダの操作 ・インターネット ・情報検索と利用</p> <p>第2回：文書・文字情報の整理 (基礎) ・ワープロソフトの使い方 ・書式設定 ・文書入と仮名漢字変換 ・書式設定＝行数、文字数、文字サイズ、余白</p> <p>第3回：文書の編集応用 ・レポート・ビジネス文書の書き方 ・図表の挿入 ・ポスター発表</p> <p>第4回：表計算基礎 (データ分析の準備) ・表計算ソフトの考え方・データ入力と編集の方法 ・表の操作方法 データの移動とコピー ・罫線とセルの装飾 ・ブックとシートの概念</p> <p>第5回：表計算応用 ・データの順序と並べ替え 順位をつける 順序を入れ替える ・データの検索</p> <p>第6回：データサイエンス：基礎統計解析・データの可視化 ・データ表現 棒グラフ 折線グラフ 散布図 複合グラフなど ・データの分布 (ヒストグラム) ・代表値 (平均値、中央値、最頻値) ・データのばらつき (分散、標準偏差、偏差値など) ・仮説検定</p> <p>第7回：プレゼンテーションとコミュニケーション (基礎) ・プレゼンテーションソフトの考え方 ・スライドの編集、文字、画像、グラフの挿入</p> <p>第8回：プレゼンテーションとコミュニケーション (応用) ・レイアウト ・アニメーション ・スライドマスター ・プレゼンテーション発表</p> <p>第9回：AIプログラミング ・AI (人工知能) ・機械学習とは何か ・画像認識とは ・画像認識・骨格認識プログラミング体験</p> <p>計22</p> <p><医療と工学> オムニバス講座</p> <p>第12-13回 (2コマ)：医療と工学① 「先進モビリティ」 ・未来のモビリティと社会 ・自動運転車いすの体験・解説</p> <p>第14-15回 (2コマ)：医療と工学② 「医療現場でのAIの活用」 「医療とAI」：・臨床診断への活用 ・医療ロボットの活用 ・カルテの解析</p> | | | <p>演習</p> <p>演習</p> <p>演習</p> <p>演習</p> <p>演習</p> <p>演習</p> <p>演習</p> <p>演習</p> <p>演習</p> <p>演習</p> <p>講義・演習</p> <p>講義・演習</p> | <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>4</p> <p>4</p> | <p>佐塚・小田</p> <p>佐塚・小田</p> <p>佐塚・小田</p> <p>佐塚・小田</p> <p>佐塚・小田</p> <p>小田・佐塚</p> <p>小田・佐塚</p> <p>小田・佐塚</p> <p>小田・佐塚</p> <p>東 大輔</p> <p>新井康平</p> |

| | |
|--------------|--|
| 評価方法 | レポート提出による評価（100点） |
| テキスト 参考図書 | 資料配布 情報リテラシー Windows11/Office2021対応 |
| 実務歴 有・無 | 無 |
| 備 考 | 東 大輔：自動車メーカーでスポーツカーおよびレース車両の空力デザイン開発に従事。 廣瀬 圭：センサメーカーエンジニアとして、計測・制御システムの新規開発に従事 |

| | | | | | | |
|--------------|---|---|----------|----------|------|-------|
| 科目区分 | 基礎分野 | | 教育内容 | 科学的思考の基盤 | | |
| 授業科目 | 健康と運動 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 畦山与里子（大学非常勤講師） 原田弘美（レクリエーション協会） | | | | | |
| 授業目的 | 豊かなライフスタイルを送るためには、心身共に健康であることが重要である。ピラティスやヨガを実践しながら運動理論や運動スキルを学ぶとともに、自己の身体と向き合いながら身体特性やウィークポイントなどを把握し、自己調整能力を高め、生涯を通じた心身の健康維持のための適切な運動習慣を身につける。 | | | | | |
| 授業目標 | <ol style="list-style-type: none"> それぞれのエクササイズの目的や効果を理解する。 適切な姿勢や身体の使い方を身につけるとともに、授業を通して心身の変化を感じる。 今後のライフスタイルに習慣的に運動を取り入れる方法を学ぶ。 心身をリフレッシュするとともに、ゆとりと楽しみを創造することができ、対象者とのレクリエーション活動に活かすことができる。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 担当：畦山与里子 <ol style="list-style-type: none"> 基礎概論 測定と評価 運動の実践 測定と評価 | <ol style="list-style-type: none"> ピラティスやヨガの歴史や運動理論について 自身の身体の現状の把握、ウィークポイントや課題の抽出 呼吸法、全身の繋がり 2) 感覚機能の向上 3) 筋の活性と抑制 4) 関節のリポジショニング 5) 体幹と四肢の分離と共同 6) 様々な体位でのボディーコントロール 運動実践を経て、身体の変化を客観的かつ主観的に評価する。 | 講義 実技 | 26 | | |
| | 担当：原田弘美 <ol style="list-style-type: none"> レクリエーション講座 | | 実技 | 4 | | |
| 評価方法 | 出席状況や授業への参加態度（80点） レポート（20点） レクリエーション出席点（10点） | | | | | |
| テキスト 参考図書 | 必要な資料は適宜配布 参考図書は適宜紹介 | | | | | |
| 実務歴 有・無 | 無 | | | | | |
| 備 考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------|---|----|--------|----------|-------|-----------------------------------|
| 科目区分 | 基礎分野 | | 教育内容 | 科学的思考の基盤 | | |
| 授業科目 | 論理的思考 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 1 5 時間 | 開講時期 | 1 年 次 | |
| 担当教員 | 国越道貴（大学非常勤講師） | | | | | |
| 授業目的 | 看護師は、医療者間で専門的な情報を正確に伝達すること、また患者と適切にコミュニケーションすることが求められる。論理的思考では、正しく考え、また他の人に理解可能な仕方で論述する方法を学ぶ。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 聞き手（読み手）の理解を目指して説明することを学ぶ。 2. 論拠に基づいて結論を導くことを学ぶ。 3. 質問はどのようになされるべきかを学ぶ。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 相手のことを考える ・ことばの意味を理解し説明する 2. 事実なのか考えなのか ・事実として述べることと、意見としてのべることを区別する 3. 言いたいことを整理する ・主張に対する論拠を明示する 4. きちんとつなげる ・文と文の関係を明示する 5. 文章の幹を捉える ・文章全体から主張あるいはそれを導く問いをとらえる 6. そう主張する根拠は何か ・適切な論拠と不適切な論拠を理解する 7. 的確な質問をする ・意味の問い、論証の問いを理解する | | | 講義 | 15 | 教科書の問題は必ず自分で解いてみること 積極的に質問すること |
| 評価方法 | 質問・発言など平素の学習態度を勘案して、最終試験によって評価する。（100点） | | | | | |
| テキスト 参考図書 | 植原 亮『思考力改善ドリル』勁草書房,2020年 副読本：講義のなかで適宜紹介する。 | | | | | |
| 実務歴 有・無 | 無 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|--|-------|-------------|------|---|
| 科目区分 | 基礎分野 | | 教育内容 | 人間と生活・社会の理解 | | |
| 授業科目 | 教育学 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 橋本真理子（大学教授） | | | | | |
| 授業目的 | 教育の原理を基礎知識として、人間形成における教育の機能を理解する。また、看護における教育的役割を学び、指導技術の基礎とする。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 教育の基礎・目的・方法・内容について理解する。 2. 人間の成長・発達について理解する。 3. 教育と看護について理解する。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 教育学を学ぶために 2. 教育をなりたたせるもの 3. 教育の営みを考える 4. 現代教育の課題 5. まとめ | 1) 社会のなかの教育と看護 2) 教育とはなにか・・・「教育」の概念 3) 教育の対象・・・子ども観と発達 1) 教授・・・「教える－学ぶ」の関係 2) 訓育・・・他者とのかかわりを導く 3) 養護・・・教育の受け手を見まもる 4) 発達・・・教育を受けて成長する 1) 学びの場・・・家庭と学校 2) 教育の目標と評価 3) 教育の担い手・・・専門性と専門職性 1) キャリア教育（専門教育） 2) ジェンダーとセクシュアリティ 3) 特別ニーズ教育・インクルシブ教育 4) 生涯学習、シティズンシップ教育 | | 講義 | 30 | 質問は講義中、いつでも受け付ける。 グループワークにおいては、積極的に参加すること。 |
| 評価方法 | 筆記試験（70点）・グループワーク（20点）・出席点（10点） | | | | | |
| テキスト参考図書 | 教育学（医学書院） | | | | | |
| 実務歴有・無 | 無 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|---|--------|-------------|------|-------------|
| 科目区分 | 基礎分野 | | 教育内容 | 人間と生活・社会の理解 | | |
| 授業科目 | 人間関係論 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 1 5 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 三浦直樹（大学非常勤講師） | | | | | |
| 授業目的 | 人間関係論の概要や意義について学び、人と人との関わりの中において自己理解ができる。また、看護や日常生活において人間関係を円滑に促進させるための様々な知識やスキルを身につけることができる。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 価値観や自己感情を認知することで自己理解を深める。 2. 他者について理解する態度やスキルを獲得する。 3. 人間関係を促進する知識や方法について学ぶ。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. エンカウンター | 1) 自己理解と他者理解 2) 人間関係の理解と構築 3) 対人関係促進のためのスキル獲得 | | エンカウンターグループ | 8 | 学外施設での体験型授業 |
| | 2. 社会的影響 | 1) 人間関係論の概要と歴史 2) 印象形成 3) 同調行動 | | 講義 | 4 | |
| | 3. 社会的役割 | 1) 集団討議と集団形成 2) まとめ | | 講義 | 3 | |
| 評価方法 | 筆記試験（50点） 講義中・講義後に記入するコメントシートや授業への参加態度（50点） | | | | | |
| テキスト参考図書 | 特になし | | | | | |
| 実務歴有・無 | 無 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|---------------------------------|-------|-------------|------|---|
| 科目区分 | 基礎分野 | | 教育内容 | 人間と生活・社会の理解 | | |
| 授業科目 | 文化と生活 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 岡部千鶴（大学部学部長） | | | | | |
| 授業目的 | 生活経験の少ない現代の学生が、人間が社会の中で生活していることを、文化と生活という視点から学び、対象の基本的な生活習慣を踏まえた援助の基礎とすることができる。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 家族を客観的に見つめ、家庭生活が国内外の社会とどのように関連しているかを考えることができる。 2. 日常生活における衣食住を具体的な事例でとらえることにより、日本人の生活文化の継承を知る。 3. 対象者の生活歴や生活環境を理解する力を高め、対象者自身の力を引き出す応用力を養う。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 「生活」を考える | 1) 生活経営の考え方 2) 家族構成の文化 | | 講義 | 30 | 適宜資料を配布する。 内容により、DVD等を視聴することがある。 |
| | 2. 生活時間とは | 1) 生活時間の管理 2) ライフスタイルとライフコース | | | | |
| | 3. 長寿社会を生きる | 1) 高齢化社会とは 2) 高齢者の生活実態 | | | | |
| | 4. 現代の結婚 | 1) 配偶者選択と伴侶性の形成 2) 夫婦関係の破綻 | | | | |
| | 5. 日本のこども | 1) 子どもと家族の現状 2) 育児における課題 | | | | |
| | 6. 生活と金銭管理 | 1) 家計と個計 2) 金銭管理の要点 | | | | |
| | 7. ファイナンシャル・プランニング | 1) 貯蓄と負債 2) 保険 | | | | |
| | 8. カード社会の金銭管理 | 1) カードの種類 2) カード社会の問題点 | | | | |
| | 9. 消費者問題 | 1) 消費者問題の歴史 2) 消費者相談の現状 | | | | |
| | 10. 衣生活を考える | 1) 衣生活と健康 2) 衣生活と管理 | | | | |
| | 11. 食生活を考える | 1) 健康な食生活 2) 食の現状と課題 | | | | |
| | 12. 住生活を考える | 1) 安全な住まい 2) 健康な住まいとエコライフ | | | | |

| | 授 業 内 容 | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
|--------------------------------------|---|-----------------------------------|----|-------|
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | 13. 地域・コミュニティ | 1) 個人と地域 2) 地域再生の実現 | | |
| | 14. 世界の中の日本 | 1) 男性と女性を取り巻く諸問題 2) 男女共同参画社会とは | | |
| | 15. 生活文化を考える | 1) 人生の四季 | | |
| 評価方法 | 講義後に記入するフィードバックシートを含めた授業への参加態度（40点）・筆記試験（60点） | | | |
| テキスト 参考図書 | 持続可能な社会をつくる生活経営学（日本家政学会生活経営学部会） | | | |
| 実務歴 有・無 | 無 | | | |
| 備 考 | | | | |

| | | | | | | |
|------------------|---|--|-------|----------|------|-------|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | | 教育内容 | 人体の構造と機能 | | |
| 授業科目 | 人体の構造 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 山木宏一（看護学校学校長：医師） | | | | | |
| 授業目的 | 1. 人体の発生、構成について学び、人体の形態と構造を理解する。 2. 人体の役割を学ぶことで、看護を实践するための解剖学的根拠が理解できる。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 人体の構造について理解する。 2. 主要な器官系統の構造と役割を理解する。 3. 解剖見学で体験したことと、講義で学んだ知識を統合する。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 解剖学を学ぶための基礎知識 | 1) 解剖学総論 2) 構造からみた人体 | | 講義 | 30 | |
| | 2. 栄養の消化と吸収 | 1) 口・咽頭・食道の構造 (1)口の構造 (2)咽頭と食道の構造 2) 腹部消化管の構造 (1)胃の構造 (2)小腸の構造 (3)大腸の構造 3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造 (1)膵臓の構造 (2)肝臓・胆嚢の構造 4) 腹膜 | | | | |
| | 3. 呼吸と血液のはたらき | 1) 呼吸器の構造 (1)上気道 (2)下気道と肺 | | | | |
| | 4. 血液の循環とその調節 | 1) 心臓の構造 (1)心筋 (2)刺激伝道系 (3)心臓の構造 2) 血管系 (1)動脈系と静脈系 (2)肺循環と体循環 (3)冠循環 (4)脳循環 3) リンパ管の構造 | | | | |
| | 5. 体液の調節と尿の生成 | 1) 腎臓の構造 2) 糸球体の構造 3) 尿細管の構造 | | | | |
| | 6. 内臓機能の調節 | 1) 自律神経による調節 (1)交感神経の構造 (2)副交感神経の構造 2) 全身の内分泌腺と内分泌細胞 (1)下垂体の構造 (2)甲状腺と副甲状腺の構造 (3)膵臓の構造 (4)副腎の構造 (5)性腺の構造 | | | | |
| | 7. からだの支持と運動 | 1) 骨格とはどのようなものか (1)人体の骨格 (2)骨の形態と構造 (3)骨の組織と組成 (4)骨の発生と成長 2) 骨の連結 (1)関節の一般的構造 (2)関節の形状と可動性 3) 骨格筋 (1)骨格筋の構造 4) 体幹の骨格と筋 5) 上肢の骨格と筋 6) 下肢の骨格と筋 7) 頭頸部の骨格と筋 8) 筋の収縮 | | | | |
| | 8. 情報の受容と処 | 1) 神経系の構造 2) 脊髄と脳の構造 3) 脊髄神経と脳神経 4) 眼の構造 5) 耳の構造 6) 味覚器の構造 7) 嗅覚器の構造 | | | | |
| | 9. 外部環境からの防御理 | 1) 皮膚の構造 | | | | |
| 10. 生殖・発生と老化のしくみ | 1) 男性生殖器 2) 女性生殖器 3) 成長と老化 | | | | | |
| 評価方法 | 筆記試験（100点） | | | | | |
| テキスト 参考図書 | 解剖生理学 人体の構造と機能1（医学書院） | | | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：他大学で解剖学を専門に15年教授として従事 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|---|-------|----------|------|-------|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | | 教育内容 | 人体の構造と機能 | | |
| 授業科目 | 人体の機能 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 後藤雅史 (クリニック院長) | | | | | |
| 授業目的 | 1. 日常生活を営むうえで、人体がどのような役割と機能をもつか理解する。 2. 人体の機能を学ぶことで、看護を実践するための生理学的根拠が理解できる。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 生命を維持する植物機能について理解する。 2. 生命を活用する動物機能について理解する。 3. 人体を保護して種を保存する機能について理解する。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 生理学を学ぶための基礎知識 2. 栄養の消化と吸収 3. 呼吸と血液のはたらき 4. 血液の循環とその調節 5. 体液の調節と尿の生成 | 1) 人体の素材としての細胞・組織 (1)細胞の構造 (2)遺伝子と遺伝情報 (3)組織・器官 2) 内部環境の恒常性 (1)体液 (2)体液の電解質・酸塩基平衡 (3)体温 3) 生体のリズム (1)サーカディアンリズム (2)睡眠と覚醒 4) エネルギー代謝 (1)同化作用と異化作用 (2)酵素 (3)栄養所要量・基礎代謝 (4)炭水化物・脂肪・蛋白質の代謝 (5)核酸・ビタミン・ミネラルの代謝 1) 咀嚼 (1)歯・口腔の機能 2) 嚥下 (1)咽頭・食道の機能 3) 消化と吸収 (1)胃・十二指腸の機能 (2)空腸・回腸・結腸の機能 (3)直腸・肛門の機能 (4)肝臓・胆道・膵臓の機能 1) 呼吸器 (1)鼻腔・咽頭・喉頭の機能 (2)気管・気管支・肺の機能 (3)呼吸機能 (4)声帯と発声 2) ガス交換 (1)外呼吸と内呼吸 (2)ガス交換 3) 酸素・二酸化炭素の運搬 4) 血液の成分と機能 (1)血液の成分 (2)血液の物理化学特性 (3)血液の働き (4)造血と造血因子 5) 止血機構 (1)凝固と線溶 6) 血液型 (1)ABO式とRh 式 1) 心臓 (1)心臓の拍出機能 (2)血液の循環の調節 1) 尿の生成 (1)濾過 (2)再吸収と分泌 2) 細胞外液の調節 (1)抗利尿ホルモンの作用 (2)レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系 3) 排尿 (1)尿管・膀胱・尿道の機能 | | 講義 | 30 | |

| | 授 業 内 容 | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
|--------------------------------------|--------------------------|--|----|-------|
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | 6. 内臓機能の調節 | 1) ホルモンの種類 (1)ホルモンの化学的性質と作用機序 2) ホルモン分泌の調節 (1)調節ホルモン・拮抗ホルモン (2)フィードバック機構 3) 内分泌器官の構造とホルモンの機能 | | |
| | 7. からだの支持と運動 | 1) 骨格 2) 姿勢 | | |
| | 8. 情報の受容と処理 | 1) 神経系の機能 (1)神経細胞と情報伝達 (2)神経組織 (3)神経膠細胞 2) 中枢神経系 (1)大脳の機能 (2)視床と視床下部の機能 (3)脳幹・小脳・脊髄の機能 (4)脊髄反射 (5)中枢神経系の統合機能 3) 末梢神経系 (1)脊髄神経・脳神経の機能 4) 視覚 (1)視力と視野 (2)形状認知と色覚 (3)視覚の伝導路 (4)眼球に関する代謝 5) 聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚 6) 内臓感覚 (1)内臓感覚の受容器と認識 | | |
| | 9. 外部環境からの防御 | 1) 体性感覚 (1)皮膚の機能 (2)漿膜と粘膜 (3)皮膚の感覚受容器 (4)皮膚感覚の種類 (5)深部感覚の受容器 2) 非特異的生体防御機構 (1)生体表面(皮膚・粘膜)での防御機構 (2)食細胞とサイトカイン (3)胸腺・脾臓・リンパ節 3) 特異的生体防御反応(免疫系) (1)免疫系の細胞 (2)抗原と抗体 (3)液性・細胞性免疫 (4)アレルギー反応 | | |
| | 10. 生殖・発生と老化のしくみ | 1) 男性生殖系 (1)精巣・精巣上体の機能 (2)付属生殖腺の機能 2) 女性生殖器 (1)卵巣の機能 (2)卵管・子宮・膣の機能 (3)性周期・妊娠・分娩・産褥 (4)乳腺 3) 受精と胎児の発生 4) 成長と老化 (1)組織および臓器の形態的・機能的 加齢変化 (2)代謝機能の加齢変化 | | |
| 評価方法 | 筆記試験(100点) | | | |
| テキスト 参考図書 | 解剖生理学 人体の構造と機能1(医学書院) | | | |
| 実務歴 有・無 | 有:病院・クリニックに於いて医師として30年従事 | | | |
| 備 考 | | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|--|-------|----------|------|-------|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | | 教育内容 | 人体の構造と機能 | | |
| 授業科目 | 生化学・栄養学 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 塚口 舞 (大学助教) 川原順子 (管理栄養士) | | | | | |
| 授業目的 | 1. 生体を構成している物質の種類と構造を学び、生体内の化学変化や代謝の仕組みを理解する。 2. 各栄養素の重要性と代謝との関係を学び、人間にとっての栄養の意義や食事療法の基本を理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 生化学を学ぶ (自学する) 上で必要な化学、数学等の基礎知識を習得する。 2. エネルギー代謝を中心に生命の活動の概略を理解する。 3. 傷病者に対して、健康状態や栄養状態をよりよい状態に改善し、疾病の予防・治療・増悪化防止をし、さらにQOLを向上させることの必要性を理解する。 4. 効果的な栄養食事療法を進めるために、関連する職種が連携したチームケアの重要性を理解できる。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①生化学 担当：塚口 舞 1. 生化学に必要な化学の基礎 2. エネルギー代謝概論 3. 細胞 4. 糖質代謝 5. 脂肪代謝 6. タンパク代謝 7. 核酸 8. 酵素 9. ビタミン 10. ホルモン 11. その他 | 1) 医学の基礎である生化学を学ぶ上で必要な化学 1) 代謝とは (1)生体エネルギー (ATC) (2)三大栄養素のエネルギー代謝 1) 細胞の構造とオルガネラ 1) 糖とは 2) 糖類の分類 3) 糖類の消化・代謝 1) 脂肪とは 2) 脂肪の分類 3) 脂肪の消化・代謝 1) タンパク質とは 2) アミノ酸とは 3) タンパク質の分類 4) タンパク質の消化・代謝 1) 核酸とは 2) 核酸の代謝 1) 酵素とは 2) 補酵素とは 1) ビタミンとは 1) ホルモンとは 1) コレステロール 2) リポタンパク 3) 胆汁酸 4) 酸・塩基平衡 | 講義 | 20 | | |

| | 授 業 内 容 | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
|--------------------------------------|---|------|----|-------|
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | ②栄養学（食事療法） 担当：川原順子 1. 食生活と栄養食事療法 <ul style="list-style-type: none"> 1) 人間の食生活 2) 食生活と栄養食事療法 3) 栄養食事療法と看護の役割 2. 医療・福祉の場における 栄養食事療法 <ul style="list-style-type: none"> 1) チーム医療と栄養食事療法 2) 医療保険制度と栄養食事療法 3. 病人食の特徴と種類 <ul style="list-style-type: none"> 1) 病人食の特徴 2) 病人食の種類 4. 主な栄養関連疾患と栄養 食事療法 <ul style="list-style-type: none"> 1) 循環器疾患患者の栄養食事療法 2) うつ血性心不全患者の栄養食事療法 3) 消化器疾患患者の栄養食事療法 4) 腎疾患患者の栄養食事療法 5) 栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法 6) 血液疾患患者の栄養食事療法 7) 精神・神経疾患患者の栄養食事療法 8) 術前・術後の栄養管理 9) 妊産婦・小児疾患患者の栄養食事療法 10) 高齢者の栄養と食事 | 講義 | 10 | |
| 評価方法 | 筆記試験：生化学（70点） 栄養学（30点） | | | |
| テキスト 参考図書 | 生化学 人体の構造と機能2（医学書院） 栄養学 人体の構造と機能3（医学書院） 栄養食事療法（医学書院） | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：川原順子：病院に於いて管理栄養士として34年従事 | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|------|---------------|------|------|-------|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | 教育内容 | 疾病の成り立ちと回復の促進 | | | |
| 授業科目 | 疾病の成り立ちと治療 I | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 谷川 健 (病院医師) 岩田慎平 (病院医師) | | | | | |
| 授業目的 | 1. 病因と病変の特徴を理解し、特に疾病による形態的機能的変化について正確な知識を養う。 2. 科学的裏付けに基づいた看護が行えるよう、系統別疾患の病態・治療・検査について理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 疾病の原因となる身体的な異常や障害など、病理学の基礎的な知識を学ぶ。 2. 形態や生理機能の異常変化による症状や徴候といった病的状態について理解する。 3. 内分泌の疾患の近年の動向を知り、看護の役割について学ぶ。 4. 基礎的な知識 (解剖生理学) を習得していることを前提とし、准看護教育で既習した学習内容を想起し、不明な点を再学習する。 5. 疾病および最新の治療や検査法など、臨床における医学的知識を深める。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①病理学及び病態生理学 担当：谷川 健 1. 病理学とは <ul style="list-style-type: none"> 1) 看護における病理学の意義 2) 病気の原因 3) 病気の分類 2. 先天異常と遺伝子異常 <ul style="list-style-type: none"> 1) 先天性異常 2) 遺伝子異常 3) 遺伝性疾患 4) 染色体異常による疾患 3. 代謝異常 <ul style="list-style-type: none"> 1) 細胞の損傷と適応 <ul style="list-style-type: none"> (1)細胞損傷とその原因 (2)細胞の適応現象 (3)細胞の死 (4)変性 2) 物質沈着 4. 循環障害 <ul style="list-style-type: none"> 1) 局所性の循環障害 2) 全身性循環障害 3) リンパの循環障害 5. 炎症と免疫、膠原病 <ul style="list-style-type: none"> 1) 炎症 2) 免疫 6. 感染症 <ul style="list-style-type: none"> 1) アレルギーと自己免疫疾患、膠原病 7. 腫瘍 <ul style="list-style-type: none"> 1) 病原体と感染症 2) 腫瘍の定義と分類 3) 腫瘍の発生病理 8. 老化 <ul style="list-style-type: none"> 1) 悪性腫瘍の転移と進行度 2) 細胞の老化と個体の老化 3) 加齢に伴う諸臓器の変化 | | | 講義 | 20 | |

| | 授 業 内 容 | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
|--------------------------------------|--|------|----|-------|
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | ②内分泌疾患 担当：岩田慎平 1. 内分泌の構造と機能 2. 検査と治療 3. 疾患の理解 | 講義 | 10 | |
| | 1) 内分泌総論 (1)ホルモンの動き (2)作用機序 (3)内分泌疾患の種類 1) 内分泌疾患の検査 2) 代謝疾患の検査 (内分泌疾患) 1) 甲状腺疾患 2) 副甲状腺疾患 3) 副腎疾患 4) 下垂体疾患 (代謝疾患) 5) 糖尿病 6) 脂質異常症 7) 肥満症とメタボリックシンドローム 8) 尿酸代謝異常 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験：病理学及び病態生理学（70点） 内分泌疾患（30点） | | | |
| テキスト 参考図書 | 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進1（医学書院） 病態生理学 疾病の成り立ちと回復の促進2（医学書院） 内分泌・代謝 成人看護学6（医学書院） | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：谷川 健：病院に於いて医師として28年従事 有：岩田慎平：病院に於いて医師として16年従事 | | | |
| 備 考 | | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|---|---------------|------|------|-------|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | 教育内容 | 疾病の成り立ちと回復の促進 | | | |
| 授業科目 | 疾病の成り立ちと治療Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 上村知子 富永芳和 齋藤 裕 (全て病院医師) | | | | | |
| 授業目的 | 1. 病因と病変の特徴を理解し、とくに疾病による形態的機能的変化について、正確な知識を養う。 2. 科学的裏付けに基づいた看護が行えるよう、疾病の成り立ちと治療について理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 呼吸器系及び循環器系疾患の近年の動向を知り、看護の役割について学ぶ。 2. 基礎的な知識（解剖生理学）を習得していることを前提とし、准看護科教育で既学した学習内容を想起し、不明な点を再学習する。 3. 呼吸器系や循環器系における疾病および最新の治療や検査法など、臨床における医学的知識を深める。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①呼吸器疾患 担当：上村知子・富永芳和 1. 呼吸器系の構造と機能 2. 症状とその病態生理 3. 検査と治療・処置 4. 疾患の理解と治療 | 1) 呼吸器系の構造 2) 呼吸の生理 1) 喀痰・咳 2) 胸痛 3) 呼吸困難 4) チアノーゼ 5) 胸水 1) 血液検査（血ガス含む） 2) 胸水検査 3) 画像診断 4) 内視鏡検査 5) 酸素療法 6) 気道確保 7) 呼吸器外科の手術 8) 人工呼吸療法 1) 感染症（かぜと急性気管支炎・インフルエンザ・肺炎） 2) 結核 3) 慢性閉塞性肺疾患 4) 気管支喘息 5) 肺腫瘍 6) 間質性肺疾患（サルコイドーシス） 7) 肺血栓塞栓症 8) 呼吸不全（ARDS） | 講義 | 14 | | |

| | 授 業 内 容 | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
|--------------------------------------|--|------|----|-------|
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | <p>②循環器疾患 担当：齋藤 裕</p> <p>1. 心臓の構造と機能</p> <p>1) 心臓の構造と機能 (1)心臓の構造 (2)刺激伝導系と心臓の電気運動 (3)心臓のポンプ作用</p> <p>2) 血管の構造と機能</p> <p>3) 循環の調節 (1)自律神経系による調節</p> <p>2. 症状とその病態生理</p> <p>1) 胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ、めまい・失神、四肢の疼痛、ショック</p> <p>3. 検査と治療・処置</p> <p>1) 検査（心電図、胸部X線検査、心エコー法、脈波検査、心臓カテーテル法、血行動態モニタリング、心臓核医学検査、コンピューター断層撮影(CT)</p> <p>2) 治療（内科的治療、外科的治療、補助循環装置）</p> <p>4. 疾患の理解</p> <p>1) 虚血性心疾患 2) 心不全 3) 血圧異常 4) 不整脈 5) 弁脈症 6) 心膜炎 7) 心筋梗塞 8) 肺性心 9) 先天性心疾患 10) 動脈系疾患・静脈系疾患・リンパ系疾患</p> | 講義 | 16 | |
| 評価方法 | 筆記試験：呼吸器疾患（50点） 循環器疾患（50点） | | | |
| テキスト 参考図書 | 呼吸器 成人看護学2（医学書院） 循環器 成人看護学3（医学書院） | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：上村知子：病院に於いて医師として29年従事 有：富永芳和：病院に於いて医師として24年従事 有：齋藤 裕：病院に於いて医師として23年従事 | | | |
| 備 考 | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|----|-------|---------------|------|-----------------|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | | 教育内容 | 疾病の成り立ちと回復の促進 | | |
| 授業科目 | 疾病の成り立ちと治療Ⅲ | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 徳重貴彦 古賀雅也 永田 務 (全て病院医師) 合原正二郎 (クリニック院長) 田浦弘貴 (病院医師) | | | | | |
| 授業目的 | 1. 病因と病変の特徴を理解し、とくに疾患による形態的機能的変化について、正確な知識を養う。 2. 科学的裏付けに基づいた看護が行えるよう、疾病の成り立ちと治療について理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 各系統の疾患の近年の動向をしり、看護の役割について学ぶ。 2. 基礎的な知識 (解剖生理学) を習得していることを前提とし、准看護教育で既習した学習内容を想起し、不明な点を再学習する。 3. 疾病および最新の治療や検査法など、臨床における医学的知識を深める。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①消化器疾患 担当：徳重貴彦・古賀雅也・永田 務 1. 消化器の構造と機能 <ul style="list-style-type: none"> 1) 食道の構造と機能 2) 胃・十二指腸の構造と機能 3) 小腸・大腸の構造と機能 4) 肝臓・胆道系の構造と機能 5) 膵臓の構造と機能 2. 症状・徴候とその病態生理 <ul style="list-style-type: none"> 1) 消化器疾患の症状・徴候とその病態生理 2) 肝臓に特有の症状・徴候とその病態生理 3. 検査と治療 <ul style="list-style-type: none"> 1) 肝機能検査 2) 超音波検査 3) 内視鏡検査 4) 肝生検 5) 放射線検査 6) 薬物療法 7) 栄養療法・食事療法 8) 手術療法 9) 放射線療法 4. 疾患の理解 <ul style="list-style-type: none"> 1) 食道の疾患 2) 胃・十二指腸・腸疾患 <ul style="list-style-type: none"> (1)胃・十二指腸潰瘍 (2)胃がん (3)腸炎 (4)腹膜炎 (5)イレウス (6)結腸・直腸がん 3) 肝臓・胆嚢・胆道の疾患 <ul style="list-style-type: none"> (1)肝炎 (2)肝硬変症 (3)肝臓がん (4)急性胆嚢炎 4) 膵臓の疾患 <ul style="list-style-type: none"> (1)膵炎 (2)膵臓がん | | | 講義 | 16 | 解剖で学習した事を復習しておく |

| | | | | | | |
|----------|---|------|---------------|------|------|-------|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | 教育内容 | 疾病の成り立ちと回復の促進 | | | |
| 授業科目 | 疾病の成り立ちと治療IV | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 馬場敦子（病院医師） 重留広輔（病院医師） | | | | | |
| 授業目的 | 1. 病因と病変の特徴を理解し、とくに疾患による形態的機能的変化について、正確な知識を養う。 2. 科学的裏付けに基づいた看護が行えるよう、疾病の成り立ちと治療について理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 各系統の疾患の近年の動向をしり、看護の役割について学ぶ。 2. 基礎的な知識(解剖生理学)を習得していることを前提とし、准看護教育で既習した学習内容を想起し、不明な点を再学習する。 3. 疾患および最新の治療や検査法など、臨床における医学的知識を深める。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | <p>①脳神経疾患 担当：馬場敦子</p> <p>1. 症状とその病態生理</p> <p>1) 意識障害 (1)意識障害の分類・評価・原因 (2)遷延性の意識障害と脳死</p> <p>2) 高次脳機能障害 (1)失語症・構語障害 (2)失行と失認 (3)認知症</p> <p>3) 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア (1)頭蓋内圧亢進 (2)脳ヘルニア</p> <p>4) 感覚機能障害 (1)感覚障害及び伝達障害 (2)視野障害</p> <p>2. 検査・診断と治療・処置の理解</p> <p>1) 検査 (1)神経学検査 ①意識状態 ②脳神経系 ③高次脳機能 (2)補助的検査 ①脳脊髄液検査 ②脳血管撮影 ③CTおよびMRI</p> <p>2) 治療 (1)外科的治療法 ①開頭手術 ②脳室－腹腔短絡術 (2)内科的治療法 ①薬物療法・血漿交換療法 ②放射線治療法</p> <p>3. 疾患の理解</p> <p>1) 脳疾患 (1)脳血管障害 ①クモ膜下出血 ②脳内出血 ③脳梗塞 (2)脳腫瘍 (3)頭部外傷</p> <p>2) 脊髄疾患 (1)脊髄炎 (2)脊髄小脳変性症</p> <p>3) 末梢神経障害 (1)糖尿病性ニューロパチー (2)ギラン・バレー症候群</p> <p>4) 脱髄・変性疾患 (1)多発性硬化症 (2)パーキンソン症候群</p> <p>5) 脳・神経系の感染症 (1)脳炎 (2)髄膜炎</p> | | | 講義 | 16 | |

| | 授 業 内 容 | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
|--------------------------------------|---|------|----|-------|
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | <p>②運動器疾患 担当：重留広輔</p> <p>1. 症状とその病態生理</p> <p>1) 疼痛 2) 形態の異常 3) 関節運動の異常および神経の障害 4) 異常歩行または跛行</p> <p>2. 検査・診断と治療・処置の理解</p> <p>1) 検査 (1)画像検査 ①X線検査 ②脊髓造影検査 ③シンチグラフィー (2)骨密度の測定 (3)徒手筋力テスト (4)関節可動域 2) 治療 (1)保存療法 ①ギプス包帯法 ②牽引 (2)理学療法と作業療法 (3)手術療法 ①骨・関節の手術</p> <p>3. 疾患の理解</p> <p>1) 外傷性（外因性）の運動器疾患 (1)骨折および脱臼 ①大腿骨頸部骨折 ②腰椎圧迫骨折 ③上腕骨顆上骨折 (2)神経の損傷 ①脊髓損傷 ②末梢神経損傷 2) 内因性（非外傷性）の運動器疾患 (1)先天性の疾患 (2)骨・関節の炎症性疾患 ①骨髄炎 ②変形性関節症 ③関節リウマチ (3)骨腫瘍 ①良性骨腫瘍 ②悪性骨腫瘍 (4)筋および腱の疾患 ①進行性筋ジストロフィー (5)神経の疾患 ①筋萎縮性側索硬化症 (6)脊椎の疾患 ①腰椎椎間板ヘルニア ②骨粗鬆症 ③腰部脊柱管狭窄症 ④側彎症</p> | 講義 | 14 | |
| 評価方法 | 筆記試験：脳神経疾患（50点） 運動器疾患（50点） | | | |
| テキスト 参考図書 | 脳・神経 成人看護学7（医学書院） 運動器 成人看護学10（医学書院） | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：馬場敦子：病院に於いて医師として28年従事 有：重留広輔：病院に於いて医師として11年従事 | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|---|--|------|------|-------|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | 教育内容 | 疾病の成り立ちと回復の促進 | | | |
| 授業科目 | 疾病の成り立ちと治療Ⅴ | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 阿久根穂高 宮崎瑞穂 武藤一考 竹内一輝 猪狩洋介（全て病院医師） | | | | | |
| 授業目的 | 1. 病因と病変の特徴を理解し、とくに疾患による形態的機能的変化について、正確な知識を養う。 2. 科学的裏付けに基づいた看護が行えるよう、疾病の成り立ちと治療について理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 各系統の疾患の近年の動向を知り、看護の役割について学ぶ。 2. 基礎的な知識（解剖生理学）を習得していることを前提とし、准看護科教育で既習した学習内容を想起し、不明な点を再学習する。 3. 最新の治療や検査法など、臨床における医学的知識を深める。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①眼疾患 担当：「 」 | 1) 眼球 2) 視神経・視路 3) 眼球付属器 | 1) 視機能に関連した症状 2) 視機能に関連しない症状 | 講義 | 4 | |
| | 2. 症状とその病態生理 | 1) 視力検査 2) 視野検査 3) 眼球運動の検査 4) 白内障の治療 5) 緑内障の治療 6) 網膜剥離の治療 | 1) 白内障 2) 緑内障 3) 網膜剥離 | | | |
| | 3. 検査と治療 | | | | | |
| | ②耳鼻咽喉疾患 担当：宮崎瑞穂 | 1) 耳の構造と機能 2) 鼻の構造と機能 3) 口腔と唾液腺の構造と機能 4) 咽頭の構造と機能 5) 喉頭の構造と機能 6) 気管・食道・甲状腺の構造と機能 | 1) 耳にあらわれる症状と病態生理 2) 鼻にあらわれる症状と病態生理 3) 咽頭にあらわれる症状と病態生理 4) 喉頭にあらわれる症状と病態生理 | 講義 | 4 | |
| | 2. 症状とその病態生理 | | | | | |
| | 3. 検査と治療 | 1) 聴力検査 2) 平衡感覚検査 | | | | |
| | 4. 疾患の理解 | 1) 外耳疾患 2) 中耳疾患 3) 内耳疾患 4) 鼻出血 5) アレルギー性鼻炎 6) 睡眠時無呼吸症候群 7) 急性・慢性扁桃炎 8) 咽頭癌 9) 喉頭癌 | | | | |
| | ③皮膚疾患 担当：武藤一考 | 1) 皮膚の構造 2) 皮膚の機能 | | 講義 | 4 | |
| | 1. 皮膚の構造と機能 | | | | | |

| | 授 業 内 容 | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
|--------------------------------------|--|------|----|-------|
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | 2. 症状とその病態生理 1) 発疹 2) 癢痒 3) 皮膚の老化 | 講 義 | 8 | |
| | 3. 検査と治療 1) 貼布試験 (パッチテスト) 2) 最少紅斑 (MED) の測定 3) 皮膚機能検査 4) 内服療法 5) 外用療法 6) 手術療法 7) 光線療法 8) レーザー療法 9) 放射線療法 | | | |
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | 4. 疾患の理解 1) 熱傷 2) 表在性皮膚疾患 3) 白癬 4) 単純ヘルペス 5) 褥瘡 | 講 義 | 10 | |
| | ④女性生殖器疾患 担当：「 」 1. 女性生殖器の構造と機能 1) 女性生殖器の構造 2) 女性生殖器の機能 | | | |
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | 2. 症状とその病態生理 1) 女性生殖疾患の症状 | 講 義 | 10 | |
| | 3. 検査と治療 1) 理学的検査 2) 病理検査 3) 細菌・ウイルス検査 4) 画像検査 5) 腫瘍マーカー検査 6) 妊娠検査 7) 内視鏡検査 8) 染色体検査・遺伝子検査 | | | |
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | 4. 疾患の理解 1) トリコモナス膣炎 2) 真菌性膣炎 3) 子宮筋腫 4) 子宮がん 5) 子宮内膜症 6) 卵巣腫瘍 7) クラミジア感染症 8) 乳がん | 講 義 | 10 | |
| | ⑤血液・造血器疾患 担当：猪狩洋介 1. 血液の生理と造血のしくみ 1) 血液の成分と機能 2) 造血のしくみ ①エリスロポエチンの産出 | | | |
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | 2. 症状とその病態生理 1) 貧血 2) 白血球増加症 3) 白血球減少症 4) 脾腫 5) リンパ節腫脹 6) 出血性素因 | 講 義 | 10 | |
| | 3. 検査と治療 1) 末梢血検査 2) 骨髄穿刺・骨髄生検 3) 輸血療法 4) 化学療法 5) 造血幹細胞移植 ①同種骨髄移植 6) 分化誘導療法 7) 分子標的療法 | | | |
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | 4. 疾患の理解 1) 鉄欠乏性貧血・悪性貧血 2) 白血病 3) 悪性リンパ腫 4) 多発性骨髄腫 5) 血友病 6) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) | 講 義 | 10 | |
| | | | | |
| 評価方法 | 筆記試験：眼疾患 (15点) 耳鼻咽喉疾患 (15点) 皮膚疾患 (15点) 女性生殖器疾患 (25点) 血液・造血器疾患 (30点) | | | |
| テキスト 参考図書 | 眼 成人看護学13 (医学書院) 耳鼻咽喉 成人看護学14 (医学書院) 皮膚 成人看護学12 (医学書院) 女性生殖器 成人看護学9 (医学書院) 血液・造血器 成人看護学4 (医学書院) | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：阿久根穂高：病院に於いて医師として10年従事 有：宮崎瑞穂：病院に於いて医師として8年従事 有：武藤一考：病院に於いて医師として15年従事 有：竹内一輝：病院に於いて医師として4年従事 有：猪狩洋介：病院に於いて医師として18年従事 | | | |
| 備 考 | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|---|---------------|------|------|-------|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | 教育内容 | 疾病の成り立ちと回復の促進 | | | |
| 授業科目 | 疾病の成り立ちと治療VI | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 1 5 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 吉田 博 (病院医師) 日高由紀子 (大学助教) 平井 良 (クリニック院長) | | | | | |
| 授業目的 | 1. 微生物の特徴と生体に及ぼす影響を学び感染症の原因である病原微生物を知る。 2. 病因と病変の特徴を理解し、とくに疾患による形態的機能的変化について、正確な知識を養う。 3. 科学的裏付けに基づいた看護が行えるよう、疾病の成り立ちと医療について理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 微生物との共存の大切さ、腸内常在微生物の健康への関わりを知る。 2. おもな病原微生物についてその特徴と感染症を理解する。 3. 各系統の疾患の近年の動向をして、看護の役割について学ぶ。 4. 基礎的な知識(解剖生理学)を習得していることを前提とし、准看護教育で既習した学習内容を想起し、不明な点を再学習する。 5. 疾病および最新の治療や検査法など、臨床における医学的知識を深める。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①微生物学 担当：吉田 博 1. 微生物学の基礎 2. おもな病原微生物 | 1) 微生物と微生物学 2) 微生物の性質 3) 微生物と人間 4) 微生物学のあゆみ 5) 細菌、真菌、原虫、ウイルスの性質 1) 病原細菌と細菌感染症 (1)グラム陽性球菌・グラム陰性球菌 (2)グラム陰性好気性杆菌 (3)グラム陰性通性菌 (4)カンピロバクター属とヘリコバクター属 (5)嫌気性菌・スピロヘータ (6)マイコプラズマ・リケッチア目 (7)クラミジア科 | 講義 | 5 | | |

| | 授 業 内 容 | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
|--------------------------------------|---|------------|----|-------|
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | ②アレルギー・膠原病疾患 担当：日高由紀子 1. アレルギー 1) 免疫のしくみ 2) 検査と治療 3) アレルギー疾患について 2. 膠原病 1) 膠原病について | 講義 | 4 | |
| | ③感染症疾患 担当：平井 良 感染症 1) 感染症とは 2) 感染症の診断・治療 3) 感染症新法 4) 菌交代現象 5) 日和見感染 6) 輸入感染症 | 講義 | 6 | |
| 評価方法 | 筆記試験：微生物学（30点） アレルギー・膠原病疾患（30点） | 感染症疾患（40点） | | |
| テキスト 参考図書 | 微生物学 疾病の成り立ちと回復の促進4（医学書院） アレルギー 膠原病 感染症 成人看護学11（医学書院） | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：吉田 博：病院に於いて医師として50年従事 有：日高由紀子：病院に於いて医師として20年従事 有：平井 良：病院に於いて医師として22年従事 | | | |
| 備 考 | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|--|-------|---------------|------|-----|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | | 教育内容 | 疾病の成り立ちと回復の促進 | | |
| 授業科目 | 臨床薬理学 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 平川智規 (病院薬剤師) 坂本泰弘 (薬局薬剤師) | | | | | |
| 授業目的 | 臨床において使用される薬物の特徴、薬理作用、薬効に影響を及ぼす要因及び人体への影響、薬の適用方法、薬物の管理について理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 薬物の作用・副作用を学び、人体への影響・日々の生活における薬物管理について学ぶ。 2. 剤形の特徴から吸収・分布・代謝・排泄について学ぶ。 3. 対象を生活者という視点で服薬指導の実際を通して対象に応じた指導方法を理解する。 4. 薬物乱用の知識を深め、自ら薬物の危険から身を守ることができる。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留意点 |
| | 担当：平川智規 1. 医薬品総論 2. 主な生活習慣病に使用する薬 3. がん・痛みに使用する薬 4. 感染症に使用する薬 5. 脳・中枢神経系疾患で使用する薬 6. 救命救急時に使用する薬 | 1) 医薬品 2) 医薬品の作用原理とその影響 3) 医薬品の適正な使用に向けて 1) 生活習慣病 2) 高血圧 3) 狭心症 4) 心筋梗塞 5) 不整脈 6) 心不全 7) 高脂血症 8) 糖尿病 1) がん使用する薬 1) 細菌感染症 2) ウイルス感染症 3) 真菌感染症 4) 寄生虫感染症 5) 消毒薬 6) 予防接種薬 1) 中枢神経系の働きと薬 2) 抗てんかん薬 3) パーキンソン病治療薬 4) 向精神薬 5) 急性期脳血管障害の薬物療法 1) 医薬品投与に関する緊急事態 2) ショックに対して使用する薬 3) 医薬品に関連した中毒の治療に使用する薬 4) 救急カートに必要な薬 5) 麻酔薬に使用する薬 | 講義 | 26 | | |

| | 授 業 内 容 | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
|--------------------------------------|---|------|----|-------|
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | 7. アレルギー、免疫不全状態の患者に使用する薬 <ol style="list-style-type: none"> 1) 気管支喘息と薬物療法 <ol style="list-style-type: none"> (1)気管支喘息に使用する薬の分類 (2)気管支喘息に使用する薬 (3)ステロイド (4)抗アレルギー薬 2) 呼吸器疾患に関する薬 3) 関節リウマチと薬物療法 4) 全身性エリテマトーデスと薬物療法 | | | |
| | 8. 消化器系疾患に使用する薬 <ol style="list-style-type: none"> 1) 消化性潰瘍治療薬 2) 健胃消化剤 3) 制吐薬、鎮吐薬 4) 胃腸機能調整薬 5) 下剤 6) 止瀉薬 7) 腸疾患治療薬 8) 肝臓・胆嚢・すい臓疾患に使用する薬 | | | |
| | 担当：坂本泰弘 1. 薬物乱用防止 <ol style="list-style-type: none"> 1) 近年の青少年の実態 2) シンナー・覚醒剤等の人体に及ぼす影響 3) 薬物を断る意識の喚起 | 講義 | 4 | |
| | 2. 地域における調剤薬局の役割 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験（90点） 出席点（10点） | | | |
| テキスト 参考図書 | 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 3（医学書院） 別巻 臨床薬理学（医学書院） | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：平川智規：病院に於いて薬剤師として25年従事 有：坂本泰弘：薬局に於いて薬剤師として41年従事 | | | |
| 備 考 | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|--|-------------|------|------|---|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | 教育内容 | 健康支援と社会保障制度 | | | |
| 授業科目 | 社会福祉 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 中野幹子 (大学教授) | | | | | |
| 授業目的 | 現代社会における社会福祉の意義と役割、医療との関係について学び、対象が必要とする社会資源の活用について理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 社会福祉の歴史的経過を知る。 2. 社会福祉における生活問題を知る。 3. 社会福祉の各制度内容とチームケアの重要性を学ぶ。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 第1章 | 社会保障と社会福祉の概要と具体的な保障内容 | | 講義 | 30 | 看護の現場で必要なことであることを理解してもらう 日本の福祉の弱い点、強い点を学位国と比較 人間として身近な問題から考えてみる 医療職として必要な知識を中心とする 医療保険と介護保険のリンクする部分の理解を促す 時代の変化に伴い制度内容が年々変化している点を注意する 受給者のスティグマを理解 国際生活機能分類(ICF)の視点は看護介護に必要なポイントであることを知らせる・病院の中でのソーシャルワーカーの位置の理解 |
| | 第2章 | 社会福祉の歴史 ・国内と外国の年表を参照 | | | | |
| | 第3章 | 少子高齢化を中心とした、社会問題・生活問題・社会福祉制度と資源 | | | | |
| | 第4章 | わが国の医療保障制度の特徴と診療報酬のしくみ | | | | |
| | 第5章 | 介護保険の成立した経緯、制度内容、今後の課題 | | | | |
| | 第6章 | 所得保障の特徴、年金保険制度の内容、労災、雇用保険の重要な内容 | | | | |
| | 第7章 | 生活保護制度のしくみ、その対象者の状況の具体的事例を提示 ・グループディスカッションによる事例検討 | | | | |
| | 第8章 | 高齢者福祉、障害者福祉、国際生活機能分類(ICF)の視点 ・ビデオにより障害者の現状を診てもらう | | | | |
| | 第9章 | 社会福祉の実践者である、社会福祉士の技術と援助 過程看護場面での必要な援助技術 | | | | |
| 評価方法 | 筆記試験 (100点) | | | | | |
| テキスト参考図書 | 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度3 (医学書院) | | | | | |
| 実務歴有・無 | 有：病院に於いて社会福祉士として19年従事 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------|---|----------|----------|-------|-------|--|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 基礎看護学 | | |
| 授業科目 | 看護の原点 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 1 5 時間 | 開講時期 | 1 年 次 | |
| 担当教員 | 高治智美 (副学校長) | | | | | |
| 授業目的 | 人間のライフサイクルにおける健康の意義、保健医療福祉における看護の役割について理解し、看護観の基盤となる考え方を学ぶ。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 看護の原点、看護の理念を学び主要概念を理解する。 2. 人間生活における健康の意義を理解する。 3. 看護理論を学ぶことで、看護に対する考え方を深める。 4. 看護における職業倫理の重要性を理解する。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 看護とは | 1) 看護の本質 | | 講義 | 15 | 事例を基に ディベート 一人の看護 理論家と中 範囲理論を 選択し学習 する |
| 2. 健康のとらえ方 | 1) 健康の定義 2) 障害とは 3) 国民全体の健康状態 健康と生活 4) 看護における倫理 医療における倫理原則 看護職の倫理綱領 看護実践場面での倫理的ジレンマ 倫理委員会 5) 看護理論とは 看護理論の発展の歴史 主な看護理論と概要 主な中範囲理論と概要 | | 演習 GW | | | |
| 評価方法 | 筆記試験 課題レポート グループ発表 | | | | | |
| テキスト 参考図書 | 看護学概論 基礎看護学1 (医学書院) 国民衛生の動向 看護職の倫理綱領 | | | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：病院に於いて看護師として7年従事 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|--|-------|------------|------|--------------------|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 基礎看護学 | | |
| 授業科目 | 看護過程の展開 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 梅谷 泉 (専任教員) | | | | | |
| 授業目的 | 1. 看護過程を構成する要素と、展開するための科学的思考プロセスを理解する。 2. 看護における観察・記録・報告の意義と方法を理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 看護過程の概念、構成要素 (構造) を理解し、その意義を理解できる。 2. 看護過程の展開をする上での、基本的基盤となる問題解決志向、クリティカルシンキング、論理的思考、リフレクション、倫理的判断を学ぶ必要性がわかる。 3. 看護の対象の問題解決への援助をするために、看護過程の各段階 (構成要素) について、基本的な考え方を学ぶ。 4. 看護記録・報告の意義と目的を理解し、その方法を学ぶ。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 看護過程とは 2. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 3. 看護過程の各段階 4. 看護記録 | 1) 看護過程の5つの構成要素 2) 5つの構成要素の関係性 3) 看護過程を用いることの利点 1) 解決問題過程 2) クリティカルシンキング 3) 倫理的配慮と価値判断 4) リフレクション 1) アセスメント (情報の収集と分析) 2) 看護問題の明確化 (看護診断) 3) 看護計画 4) 実施 5) 評価 1) 看護記録とは 2) 記載・管理における留意点 3) 看護記録の構成 | | 講義 | 30 | 事例を用いて、看護過程の一連を行う。 |
| 評価方法 | アセスメント (1) の提出 (10点) 看護過程の全体の提出 (30点) | | | 筆記試験 (60点) | | |
| テキスト参考図書 | 基礎看護技術 I 基礎看護学 2 (医学書院) | | | | | |
| 実務歴有・無 | 有: 病院に於いて看護師として9年従事 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------|--|---|-------|------|------|---|
| 科目区分 | 専門分野 | 教育内容 | 基礎看護学 | | | |
| 授業科目 | 身体の中の声を聴く技術 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 釘原理加 小山みどり (専任教員) | | | | | |
| 授業目的 | 1. ヘルスアセスメントの基礎を学び、対象のフィジカルイグザミネーションが実践できる。 2. フィジカルアセスメントにより体の中の声を聞き、対象に適した看護を提供できる能力を身につける。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 全身のフィジカルイグザミネーションが実践できる。 2. 系統別フィジカルアセスメントを理解できる。 3. フィジカルアセスメントを看護に活かすことができる。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. フィジカルアセスメントとは・ フィジカルアセスメントが 持つ意味 | 1) 健康歴聴取の実際 2) セルフケア能力のアセスメント 3) 情報のアセスメントとケアの方向性 | | 講義 | 30 | 看護師教育 の技術項目 と卒業時の 到達目標 No.51 No.52 呼吸、循環、 腹部、筋・骨 格系の聴 診・触診・計 測は演習 異常な呼吸 音、心音、腹 鳴はCD、 DVDにて学 習する。 |
| | 2. 全体の概観 | 1) フィジカルアセスメントに必要な技術 (視診・触診・聴診・打診) 2) バイタルサインの観察とアセスメント 3) 身体計測とアセスメント 4) ケアにつなげるアセスメント | | 演習 | | |
| | 3. 呼吸器系のフィジカル アセスメント | (1)呼吸器系のフィジカルアセスメント (正常な呼吸音) (2)呼吸器系のフィジカルアセスメント (異常な呼吸音) (3)呼吸器系のフィジカルアセスメント (異常な呼吸音の疾患と看護) | | | | |
| | 4. 循環器系のフィジカル アセスメント | (1)循環器のアセスメント(正常な心音) (2)循環器系のフィジカルアセスメント異常心音 (3)循環器系のフィジカルアセスメント異常 心音の疾患と看護 | | | | |
| | 5. 神経系のフィジカルアセスメント | | | | | |
| | 6. 頭頸部のフィジカルアセスメント | | | | | |
| | 7. 感覚器と外皮系のフィジカルアセスメント | | | | | |
| | 8. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント | | | | | |
| | 9. 乳房・腹部のアセスメント | | | | | |
| | 10. 心理・社会状態のアセスメント | | | | | |
| | 11. フィジカルアセスメント を看護に活かす方法 | (1)フィジカルアセスメントを看護に活かす方法 (2)看護への活用の実事例を通して考える | | | | |
| 評価方法 | 筆記試験 (100点) | | | | | |
| テキスト 参考図書 | 基礎看護技術 I 基礎看護学2 (医学書院) | | | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：釘原理加：病院に於いて助産師として8年従事 有：小山みどり：病院に於いて看護師として25年従事 | | | | | |
| 備 考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------|--|---|-------|------|---|-------|
| 科目区分 | 専門科目 | 教育内容 | 基礎看護学 | | | |
| 授業科目 | 生命維持を助ける技術 I | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 下川知美 (教務主任：看護師) | | | | | |
| 授業目的 | 対象に必要な看護技術項目の一つひとつについて、[実施前の評価]「適応・禁忌」「根拠」「実施後の評価」など基本的な考え方を学び、対象の状況に応じた看護ケアを提供できる能力を養う。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 対象にとって安全かつ安楽な日常生活の援助技術を実践することができる。 2. 診療の補助技術における基礎知識を身につけ、安全・安楽な技術を習得する。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 食事の援助技術 | 1) 非経口的栄養摂取の援助 (1)経管栄養法 : 整容・口腔ケア : 経鼻胃チューブの挿入 : 経管栄養法による流動食の注入 | 演習 | 30 | 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 No1 No2 No7 No13 No14 No15 No16 No26 No29 No50 No53 No57 No58 No59 No60 No61 No64 No65 No69 No70 No71 上記の内容に関しては、確認を行う | |
| | 2. 排泄援助技術 | 1) 導尿 (1)一時的導尿 (2)持続的導尿 :導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入 :膀胱留置カテーテルの管理 :陰部の保清 2) 排便を促す援助 (1)浣腸 (グリセリン浣腸) (2)摘便 :陰部の保清 | | | No5 No6 No8 No9 No10 No11 No37 No30 No31 No32 No33 上記の内容は演習の中で教授する | |
| | 3. 呼吸・循環を整える技術 | : 酸素吸入療法の実施 :ネブライザーを用いた気道内加湿 1) 排痰ケア (1)吸引 (一時吸引:口腔・鼻腔・気管内吸引) | | | | |
| 評価方法 | 技術試験 (60点) 筆記試験 (40点) | | | | | |
| テキスト 参考図書 | 基礎看護技術 I 基礎看護学 2 (医学書院) 基礎看護技術 II 基礎看護学 3 (医学書院) | | | | | |
| 実務歴 有・無 | 有: 病院に於いて看護師として7年従事 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------|---|------|-------|----------|------|--|
| 科目区分 | 専門分野 | 教育内容 | 基礎看護学 | | | |
| 授業科目 | 生命維持を助ける技術Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 安西明日香（専任教員） 神田要二郎（病院臨床工学技士） | | | | | |
| 授業目的 | 対象に必要な看護技術項目の1つひとつについて、「実施前の評価」、「適応・禁忌」、「根拠」、「実施後の評価」など基本的な考え方を学び、対象の状況に応じた看護ケアを提供できる能力を養う。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 医療機器の原理と実際を学び、看護の方法が分かる。 2. 薬物療法における基礎知識を身につけ、安全・安楽な与薬技術を習得する。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①診療の補助技術 担当；安西明日香 2. 与薬(薬物・輸液療法)と看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 与薬の基礎知識 2) 経口与薬と口腔内与薬 3) 吸入 4) 経皮・外用薬の投与 5) 直腸内与薬 6) 注射の援助技術 <ul style="list-style-type: none"> (1)皮下注射 (2)皮内注射 (3)筋肉内注射 (4)静脈内注射・点滴の留置方法と管理 (5)採血方法 (検体の取り扱いも含む) 7) 輸血方法と管理 | | | 講義 演習 | 22 | 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 No.1 No.29 No.38 No.39 No.40 No.41 No.42 No.43 No.44 No.45 No.46 No.57 No.58 No.59 No.60 No.61 No.62 No.63 No.65 No.69 No.70 No.71 上記の番号は、演習の中で確認をしていく。 |
| | ②ME機器 担当；神田要二郎 1. 医療機器の原理と実際 <ul style="list-style-type: none"> 1) 医療機器の原理 2) 医療ガスについて 3) 測定用ME機器 (心電図モニター、血圧計、パルスオキシメーター等) 4) 治療用ME機器 (吸引器、除細動器、電気メス、輸液・シリンジポンプ、人工呼吸器、吸引、酸素ボンベ等) | | | 講義 | 8 | |
| 評価方法 | 筆記試験・出欠席状況：診療の補助技術（70点） ME機器（30点） | | | | | |
| テキスト 参考図書 | 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3（医学書院） 臨床看護総論 基礎看護学4（医学書院） | | | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：安西明日香：病院に於いて看護師として16年従事 有：神田要二郎：病院に於いて臨床工学士として6年従事 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|----|---------------|-------|--|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 基礎看護学 | |
| 授業科目 | 考える生活援助技術 | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 |
| 担当教員 | 中島由香里 飯田浩美（専任教員） | | | | |
| 授業目的 | 対象に必要な看護技術項目の1つひとつについて、「実施前の評価」「適応・禁忌」「根拠」「実施後の評価」など基本的な考え方を学び、対象の状況に応じた看護ケアを提供できる能力を養う。 | | | | |
| 授業目標 | 1. 対象に応じた具体的な個別性のある看護計画を基に、対象にとって安全・安楽な日常生活援助技術を実践できる。 2. 日常生活援助を実践するために必要な観察の視点やアセスメント力・判断能力を習得できる。 3. 対象や場に応じた指導を行うための基礎的技術を習得し、実践できる。 | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授業内容 | | 授業方法 | 時間 | 留意点 |
| | 1. 学習支援 1) 看護における学習支援 2) 健康に生きることを支える学習支援 3) 健康状態の変化に伴う学習支援 4) 学習支援の実際 2. 事例に基づいた演習 事例；大腿骨頸部骨折の手術後患者 （老年看護学方法論Ⅱの事例） ※演習を行うにあたり、以下の1)2)3)の オリエンテーションを行う 1) 目的 2) 演習の進め方・スケジュール 3) 科目評価について 4) 対象に実施すべき日常生活援助及び 指導の項目選択 援助項目；環境調整 排泄援助 活動・休息援助 清潔・衣生活援助 呼吸・循環を整える技術 症状・生体機能管理技術 感染予防技術 安全管理の技術 安楽確保の技術 5) 患者の状況に合わせた日常生活援助 及び指導の演習 6) 日常生活援助及び指導の実践（発表会） | | 講義 | 4 | |
| | | | 講義 | 2 | 生命維持を助ける技術 I・IIをふまえて考える |
| | | | 演習 (個人・GW) | 16 | 看護師教育の技術項目 と卒業時の到達度 No1 No2 No7 No13 No14 No15 No16 No17 No19 No20 No21 No22 No23 No24 No25 No27 No29 No50 No57 No58 No59 No60 No61 No63 No64 No65 No69 No70 No71の 内容に関しては、確認を 行う |
| 評価方法 | 課題（10点） 発表会（90点） | | | | |
| テキスト 参考図書 | 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2（医学書院） 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3（医学書院） | | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：中島由香里：病院に於いて看護師として7年従事 有：飯田浩美：病院・クリニックに於いて看護師として12年従事 | | | | |
| 備考 | 教科書 知識に関しては自己学習を行う。 | | | | |

| | | | | | | |
|--|---|------|----------|------|------|-------|
| 科目区分 | 専門分野 | 教育内容 | 地域・在宅看護論 | | | |
| 授業科目 | 地域・在宅看護入門 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 原口 勝 (病院院長) 渡邊理恵 (大学講師：看護師) 森永朗子・山下寛子 (大学助教：保健師・看護師) 飯田浩美 (専任教員：看護師) | | | | | |
| 授業目的 | 地域で暮らす人々の多様な環境とその生活を理解し、対象の生活と健康を支えるための看護の基礎的知識を修得することができる。 | | | | | |
| 授業目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の生活から暮らしとは何かをあらためて考えることができる。 2. 地域・在宅看護の対象者の理解と看護の提供方法を理解する。 3. 地域で暮らす対象者のニーズと、看護の役割を理解する。 4. 地域・在宅看護の実践において、多職種との連携の重要性を理解する。 5. 対象の生活と健康を支えるために必要な、法制度を知る。 6. 在宅で終末を迎える対象者とその家族への支援の方法を学ぶ。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 担当：渡邊 理恵・森永 朗子 <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の暮らしを考える (序章) <ol style="list-style-type: none"> 1) 働くこと・学ぶことと暮らし 2) 高齢者のいる暮らし 3) 出産・育児と暮らし 2. 人々の暮らしと地域・在宅看護 (1 章) <ol style="list-style-type: none"> 1) 人々の暮らしの理解 2) 地域在宅看護の役割 3. 地域・在宅看護の対象者 (2 章・3 章) <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域・在宅看護の対象者 2) 家族の理解 3) 地域に暮らす対象者の理解と看護 4. 地域における暮らしを支える看護 (4 章) <ol style="list-style-type: none"> 1) 暮らしを支える地域・在宅看護 2) 暮らしの環境を整える看護 3) 広がる看護の対象と提供方法 4) 地域における家族への看護 5) 地域におけるライフステージに応じた看護 5. 地域・在宅看護実践の場と連携 (5 章) <ol style="list-style-type: none"> 1) さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし 2) おもな地域・在宅看護実践の場 6. 地域・在宅看護に関わる制度とその活用 (6 章) <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護保険・医療保険制度 2) 地域・在宅看護に関わる医療提供体制 3) 訪問看護の制度 4) 地域保険にかかわる法制度 5) 高齢者に関する法制度 6) 障害者・難病に関する法制度 7) 公費負担医療に関する法制度 8) 権利保障に関する法制度 | | | 講義 | 2 | |
| 担当：原口 勝 | | | | | | |
| 7. 訪問診療 | | | | | 2 | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅緩和ケアの理解を深める (身体的援助) 2) 在宅緩和ケアの理解を深める (精神的援助) | | | | | 2 | |
| 担当：飯田 浩美 | | | | | | |
| 8. 暮らしを支える様々な福祉用具、住居の理解 | | | 施設見学 | | 2 | |
| 評価方法 | 筆記試験：80点 毎回講義感想・意見・質問を提出する。評価の対象とする。 訪問診療：出席点 (10点) 施設見学：レポート：10点 | | | | | |
| テキスト参考図書 | 地域・在宅看護の基盤 地域在宅看護論 I (医学書院) | | | | | |
| 実務歴有・無 | 有：渡邊理恵：病院・訪問看護ステーションに於いて看護師として25年従事 有：森永朗子：地域包括支援センターに於いて保健師として6年従事 有：山下寛子：病院・訪問看護ステーションに於いて看護師・保健師として10年従事 有：原口 勝：病院に於いて医師として43年従事 有：飯田浩美：病院・クリニックに於いて看護師として12年従事 | | | | | |
| 備考 | 必ず指定されたテキストのページの予習をして臨むこと!! | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------------|---|--|----------|------|-------------------|-------|
| 科目区分 | 専門分野 | 教育内容 | 地域・在宅看護論 | | | |
| 授業科目 | 地域と暮らし | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 釘原理加 飯田浩美（専任教員） | | | | | |
| 授業目的 | 看護の対象である生活者の生活の場を実際に知ることで、自分らしく暮らすための地域の特性と支援について考えることができる。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 学校の所在する地域をリサーチし、地域の特性を理解することができる。 2. 健康障害が生じて、自分らしく住み慣れた地域で生活するために必要な支援について知り、その課題を考えることができる。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 人々の暮らしの理解 | 1) 暮らしとは 2) 暮らしと健康の関係 3) 暮らしの中で健康をとらえる | 講 義 | 30 | 自分達の足で、リサーチし、発表する | |
| 2. 暮らしの基盤としての地域の理解 | 1) 暮らしと地域 2) 暮らしと地域を理解するための考え方 3) 地域包括ケアシステムと地域共生社会 | | | | | |
| | 3. 八女市民の生活をリサーチ (八女市、矢部、星野、黒木、立花、上陽) | 1) 6つの地域歴史と文化、環境を調べる。 2) 八女市の6つの地域を理解するために必要な情報とその収集方法 3) 地域にある施設とその目的 4) 地域包括支援センターでの見学実習 5) 実際に歩いてみる 6) プレゼンテーション | 講 習 | | | |
| 評価方法 | 課題レポート（50点） グループワークプレゼンテーション（50点） | | | | | |
| テキスト参考図書 | 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1（医学書院） | | | | | |
| 実務歴有・無 | 有：釘原理加：病院に於いて助産師として8年従事 有：飯田浩美：病院・クリニックに於いて看護師として12年従事 | | | | | |
| 備 考 | | | | | | |

| | | | | | | | |
|--------------|---|-------------------------------------|----------|------|------|---|--|
| 科目区分 | 専門分野 | 教育内容 | 地域・在宅看護論 | | | | |
| 授業科目 | 家族看護 | | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 1 5 時間 | 開講時期 | 1 年次 | | |
| 担当教員 | 桐明あゆみ (大学教授) | | | | | | |
| 授業目的 | 家族看護の発展の歴史を理解し、家族看護における看護の役割、家族アセスメントの視点および家族全体のQOLの向上に資する援助の方法について学ぶ。 | | | | | | |
| 授業目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族の多様性について理解できる。 2. 家族を捉える諸理論 (家族発達理論、家族ストレス対処理論、家族システム看護理論) について理解できる。 3. 家族看護理論に基づく家族アセスメントの方法が理解できる。 4. 健康問題をもつ家族の事例演習をとおして家族に対する援助の方向性を考察できる。 | | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 | |
| | 1. 家族看護学の歴史と定義 | | | 講義 | 15 | 各回で、課題を課します。積極的に取り組み、理解を深められるよう努めてください。 | |
| | 2. 家族ヘルスケア諸理論 (家族発達理論、家族ストレス対処理) | | | 講義 | | | |
| | 3. 家族システム理論 (カルガリー式家族看護モデルについて) | | | 講義 | | | |
| | 4. 家族アセスメントの視点 (構造面のアセスメント/ジェノグラムとエコマップの作成) | | | 講義 | | | |
| | 5. 家族アセスメントの視点 (発達・機能面のアセスメント/ 円環的コミュニケーションパターンについて) | | | 講義 | | | |
| | 6. 健康問題を持つ家族に対する支援 (カルガリー式家族介入モデルについて) | | | 講義 | | | |
| | 7.8. 健康問題を持つ家族の事例演習① | | | 演習 | | | |
| | 9.10. 健康問題を持つ家族の事例演習② | | | 演習 | | | |
| | 評価方法 | 筆記試験 (60点) 演習評価 (30点) 出席状況・態度 (10点) | | | | | |
| テキスト 参考図書 | 別巻 家族看護学 (医学書院) 小林奈美 グループワークで学ぶ家族看護論 カルガリー式家族看護モデルへのファーストステップ 第2版 医歯薬出版 2011 | | | | | | |
| 実務歴 有・無 | 有: 病院に於いて看護師として15年従事 | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |

| | | | | | | |
|-----------------------|---|--|--------|-------|--|-------|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 成人看護学 | | |
| 授業科目 | 成人看護学概論 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 1 5 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 梅谷 泉（専任教員） | | | | | |
| 授業目的 | 成人期にある対象の特徴と健康の保持増進の重要性を理解し、健康障害時の看護について学ぶ。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 成人期の各期における特徴を理解し、成人がどのような役割を担っているか学ぶことができる。 2. 人口の動向を知り、成人期における疾病と受療動向を理解することができる。 3. 成人期における健康障害が生活習慣やストレスと関連していることを理解し、職業に関連した健康障害と予防策を学ぶことができる。 4. 健康の定義を理解し、成人の健康な生活の獲得と増進について理解することができる。 5. 成人教育における理論を学ぶことで、健康教育や患者指導に繋がることを理解できる。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 成人と生活 | 1) 対象の理解 (1)生涯発達の特徴 (2)各発達段階の特徴 | 講義 | 15 | 国民衛生の動向をもとに、変動する社会生活や医療システムの改革をとらえ、大人の健康状態や健康問題を理解する | |
| 2. 生活と健康 | 2) 対象の生活 (1)生活を営むこと (2)仕事をもち、働くこと (3)家族からとらえる大人 (4)人生をたどること | | | | | |
| 3. 成人の健康レベルや状態に対応した看護 | 1) 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 (1)成人を取り巻く環境と生活の状況 (2)成人の健康の状況 2) 生活と健康をまもりはぐくむシステム (1)保健・医療・福祉にかかわる背策の概要 (2)保健・医療・福祉システムの連携 | | | | | |
| | | 1) ヘルスプロモーションと看護 2) 健康をおびやかす要因と看護 3) 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 4) 慢性病との共存を支える看護 5) 障害がある人の生活とリハビリテーション | | | 生活習慣病の発生要因や主な疾患の事例をもとに、健康レベルに応じた具体的な支援方法を考える | |
| 評価方法 | 筆記試験（100点） | | | | | |
| テキスト参考図書 | 成人看護学総論 成人看護学1（医学書院） | | | | | |
| 実務歴有・無 | 有：病院に於いて看護師として9年従事 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------------|--|----|-------|-------|------|--|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 成人看護学 | | |
| 授業科目 | 成人看護学方法論 I | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 橋本光規 (病院看護師) 藤吉梨沙 (病院看護師) | | | | | |
| 授業目的 | 成人期にある対象の特徴と健康の維持増進の重要性を理解し、健康障害時の看護について学ぶ。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 循環器疾患をもつ対象がどのような経過を辿っていくのか、その特徴を理解し、状況に応じた援助方法を学ぶ。 2. 呼吸器疾患をもつ対象がどのような経過を辿っていくのか、その特徴を理解し、状況に応じた援助方法を学ぶ。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①循環器疾患をもつ人の看護 担当：橋本光規 1. 循環器疾患をもつ患者の経過と看護 2. 症状に対する看護 1) 胸痛 2) 動機 3) 浮腫 4) 呼吸困難 5) チアノーゼ 6) 失神 7) 四肢の疼痛 3. 検査を受ける患者の看護 1) 心臓カテーテル法を受ける患者の看護 2) 血行動態モニタリングを受ける患者の看護 (1)スワン - ガンツカテーテル (2)観血的動脈圧モニタリング (3)中心静脈圧の測定 3) 心電図検査を受ける患者の看護 (心電図モニター装着の演習を含む) 4. 治療を受ける患者の看護 1) 薬物療法を受ける患者の看護 2) カテーテル治療を受ける患者の看護 3) 手術を受ける患者看護 5. 疾患をもつ患者の看護 1) 心臓リハビリテーションと患者教育 ②呼吸器疾患をもつ人の看護 担当：藤吉梨沙 1. 呼吸器疾患をもつ患者の経過と看護 2. 症状に対する看護 1) 咳・喀たんのある患者の看護 2) 血たん・喀血のある患者の看護 3) 呼吸困難のある患者の看護 3. 検査を受ける患者の看護 1) 内視鏡検査 2) 肺組織の生検 4. 治療・処置を受ける患者の看護 1) 吸入療法 2) 酸素療法 3) 人工呼吸器 4) 気管切開 5. 疾患をもつ患者の看護 1) 肺炎 2) 結核 3) 気管支喘息 4) 慢性閉塞性肺疾患 5) 肺血栓塞栓症 6) 急性呼吸窮迫症候群 7) 睡眠時無呼吸症候群 8) 肺がん 9) 自然気胸 | | | 講義 | 16 | 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 No34 上記の技術は講義の中で教授する |
| 評価方法 | 筆記試験：循環器 (50点) 呼吸器 (50点) | | | | | |
| テキスト 参考図書 | 循環器 成人看護学 3 (医学書院) 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) 呼吸器 成人看護学 2 (医学書院) 臨床看護総論 基礎看護学 4 (医学書院) | | | | | |
| 実務 歴 有・無 | 有：橋本光規：病院に於いて看護師として21年従事 有：藤吉梨沙：病院に於いて看護師として21年従事 | | | | | |
| 備 考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|---|--------|-------|------|-------|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 老年看護学 | | |
| 授業科目 | 老年看護学概論 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 1 5 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 下川知美 (教務主任) | | | | | |
| 授業目的 | 老年期にある対象の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解し、生活の質の維持・向上を支援する医療・保健・福祉のネットワークを活用しながら、高齢者の生活の質の維持・向上を目指す看護について理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活と意思に触れ、個別的で複雑な発達過程やその人の価値観・信念に関心を持つ。 2. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴を説明できる。 3. 老いることを肯定的にとらえ、その人の生活や人権を尊重し、擁護することができる。 4. 高齢者の生活を支援するための医療・保健・福祉のネットワークを知る。 5. 高齢者の健康生活を支える老年看護の特徴と役割を理解する。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の対象の理解 2. 老年看護援助の基本 3. 高齢者の暮らしと家族 4. 社会生活における高齢者の課題 5. 高齢者の社会保障制度 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 老いるとは 2) ライフサイクルにおける老年期 3) 加齢に伴う変化 <ol style="list-style-type: none"> (1)加齢に伴う変化の特徴 (2)身体的・心理的・社会的変化 4) 高齢化への国際的動向 <ol style="list-style-type: none"> (1)高齢化に対する国際会議 (2)日本における高齢人口と高齢化問題 5) 高齢化が社会生活に及ぼす影響 <ol style="list-style-type: none"> (1)高齢者の暮らし向き <ol style="list-style-type: none"> 1) 老年看護とは <ol style="list-style-type: none"> (1)老年看護の目的 (2)老年看護の対象 (3)老年看護の独自性 (4)キュアトケアの統合 (5)看護と介護の役割 2) 老年看護の目標 <ol style="list-style-type: none"> (1)老年看護の場の多様性 (2)快適で自立した生活の実現 3) 高齢者に多い事故 <ol style="list-style-type: none"> (1)誤嚥と窒息の予防 (2)転倒・転落の予防 (3)熱傷の予防 4) 老年看護の活動の場と役割 <ol style="list-style-type: none"> (1)高齢者の健康レベル (2)地域・病院・介護保険施設 5) 老年看護の倫理的問題 <ol style="list-style-type: none"> (1)身体拘束・身体抑制 (2)成年後見制度 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の暮らし 2) 高齢者と家族 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老人医療と介護負担 2) 高齢者の学習ニーズ 3) 高齢者虐待 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老人福祉法 2) 高齢者医療確保法 3) 介護保険法 | 講義 | 15 | | |
| 評価方法 | 筆記試験 (100点) | | | | | |
| テキスト参考図書 | 老年看護学 (医学書院) | | | | | |
| 実務歴有・無 | 有：病院に於いて看護師として7年従事 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|------|-------|------|------|--|
| 科目区分 | 専門分野 | 教育内容 | 老年看護学 | | | |
| 授業科目 | 老年看護学方法論 I | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 馬場宏子（病院看護師） 上野修一（病院看護師） | | | | | |
| 授業目的 | 老年期にある対象の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解し、生活の質の維持・向上を支援する医療・保健・福祉のネットワークを活用しながら、高齢者の生活の質の維持・向上を目指す看護について理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 老年期にある人の健康障害時の諸課題について理解し、生活行動に障害のある対象及びその家族に対する看護を学ぶ。 2. 事例を通して、老年者を対象にして看護過程展開技術を身につけることができる。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | <p>①運動器疾患をもつ人の看護 担当：馬場宏子</p> <p>1. 援助のための主な知識と技術</p> <p>1) 日常生活動作に対する援助 2) 良肢位と身体各部の相互位置関係 3) 床上での離床訓練 4) 排泄・環境の調整</p> <p>2. 症状に対する看護</p> <p>1) 神経麻痺 2) 拘縮 3) 疼痛 4) 出血 5) 感染 6) 褥瘡 7) 深部静脈血栓</p> <p>3. 検査を受ける患者の看護</p> <p>4. 保存療法を受ける患者の看護</p> <p>1) ギプス固定を受ける患者の看護 2) 副子固定を受ける患者の看護 3) 牽引療法を受ける患者の看護</p> <p>5. 手術を受ける運動機能に障害のある人の看護</p> <p>1) 人工骨頭置術 2) 人工股関節全置換術</p> <p>6. 経過に応じた患者の看護</p> <p>1) 急性期患者の看護 2) 回復期患者の看護</p> <p>7. 疾患を持つ患者の看護</p> <p>1) 大腿骨頸部骨折患者の看護 2) 腰椎椎間板ヘルニア患者の看護 3) 脊髄損傷患者の看護</p> <p>②脳神経疾患をもつ人の看護 担当：上野修一</p> <p>1. 脳神経疾患の症状及び障害に対する看護</p> <p>1) 意識障害に対する看護 2) 言語障害に対する看護 3) 運動失調・不随意運動に対する看護 4) 頭蓋内圧亢進に対する看護 5) 嚥下障害に対する看護</p> | | | 講義 | 12 | 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 No14 No15 No17 |
| | | | | 講義 | 18 | |

| | | | | | | |
|----------|---|------|-------|------|------|-------|
| 科目区分 | 専門分野 | 教育内容 | 老年看護学 | | | |
| 授業科目 | 老年看護学方法論Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 小川聡志（病院看護師） 山科美弥（病院看護師） 中島由香里（専任教員） | | | | | |
| 授業目的 | 老年期にある対象の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解し、生活の質の維持・向上を支援する医療・保健・福祉のネットワークを活用しながら、高齢者の生活の質の維持・向上を目指す看護について理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 老年期にある人の健康障害時の諸課題について理解し、生活行動に障害のある対象及びその家族に対する看護を学ぶ。 2. 事例を通して、老年者を対象にして看護過程の展開技術を身につけることができる。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①腎・泌尿器疾患をもつ人の看護 担当：小川聡志・山科美弥 1. 腎・泌尿器症状のある患者の看護 1) 浮腫 2) 高血圧 3) 排尿障害 4) 尿失禁 5) 血尿・膿尿 6) 疼痛 2. 検査を受ける患者の看護 3. 薬物療法・食事療法を受ける患者の看護 4. 手術を受ける患者の看護 5. 透析療法を受ける患者の看護 6. 腎移植の手術を受ける患者の看護事例展開 | | | 講義 | 14 | |
| | ②看護過程の展開 担当：中島由香里 周手術期の高齢者の事例展開（大腿骨頸部骨折） | | | 講義 | 16 | |
| 評価方法 | 筆記試験：腎・泌尿器疾患（50点） 事例の課題（50点） | | | | | |
| テキスト参考図書 | 腎・泌尿器 成人看護学8（医学書院） 運動器 成人看護学10（医学書院） | | | | | |
| 実務歴有・無 | 有：小川聡志：病院に於いて看護師として23年従事 有：山科美弥：病院に於いて看護師として27年従事 有：中島由香里：病院に於いて看護師として7年従事 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|---|---|------|------|-------|
| 科目区分 | 専門分野 | 教育内容 | 小児看護学 | | | |
| 授業科目 | 小児看護学概論 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 中島由香里（専任教員） | | | | | |
| 授業目的 | 小児各期の特徴を理解し、小児の成長発達段階に応じた養護と健康障害をもつ児とその家族に対する看護について学ぶ。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 小児の特性を学び、小児看護の機能と役割を理解する。 2. 小児各期における成長発達過程と小児を取り巻く環境を学び、小児保健活動と看護の役割を理解する。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 小児看護の特徴と理念 | 1) 小児看護の目ざすところ 3) 小児看護の変遷 5) 小児看護の課題 | 2) 小児と家族の諸統計 4) 小児看護における倫理 | 講義 | 30 | |
| | 2. 子どもの成長・発達 | 1) 成長・発達とは 2) 成長・発達の進み方(一般的原則) 3) 成長・発達に影響する因子 | 4) 成長・発達の評価 | | | |
| | 3. 新生児・乳児 | 1) 新生児 (1)形態的・機能的発達 (2)新生児の養育および看護 2) 乳児 (1)形態的・身体生理の特徴 (2)感覚・運動・知的・コミュニケーション・情緒的・社会的機能 (3)乳児の養育および看護 | | | | |
| | 4. 幼児・学童 | 1) 幼児 (1)形態的・身体生理の特徴 (2)感覚・運動・知的・コミュニケーション・情緒的・社会的機能 (3)幼児の養育および看護 2) 学童 (1)形態的・身体生理の特徴 (2)感覚・運動・知的・情緒・社会的機能 (3)不適応行動症状 (4)学童を取り巻く諸環境 (5)学童の養育および看護 | | | | |
| | 5. 思春期・青年期の子ども | 1) 形態的・身体生理の特徴 3) 生活の特徴 5) 性に関する健康問題 6) 反社会的・逸脱行動 | 2) 知的・情緒(心理)的・社会的機能 4) 心理・社会的適応に関する問題 7) 思春期の看護 | | | |
| | 6. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 | 1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2) 子どもの健康問題と看護 | | | | |
| | 7. 子どもと家族を取り巻く社会 | 1) 子どもにとっての家族とは (1)家族とは (2)現代家族の特徴 2) 児童福祉・母子保健 3) 医療費の支援・予防接種 4) 学校保健 | 5) 特別支援教育 | | | |
| | 8. 子どもの虐待と看護 | 1) 子どもの虐待への対策の経緯と現状 2) 子どもの虐待とは 3) リスク要因と発生予防・早期発見 4) 子どもの虐待に特徴的にみられる状況 | 5) 求められるケア | | | |
| 評価方法 | 筆記試験（100点） | | | | | |
| テキスト参考図書 | 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学1（医学書院） 国民衛生の動向（一般財団法人労働統計協会） | | | | | |
| 実務歴有・無 | 有：病院に於いて看護師として7年従事 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|----|-------|-------|------|-------|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 小児看護学 | | |
| 授業科目 | 小児看護学方法論 I | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 喜多村美幸（病院医師） 新原敏子（病院看護師） | | | | | |
| 授業目的 | 小児各期の特徴を理解し、小児の成長発達段階に応じた養護と健康障害をもつ児とその家族に対する看護について学ぶ。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 小児の主な疾患と検査・治療について理解する。 2. 健康障害のある小児および家族の特徴を特徴が理解できる。 3. 健康障害のある小児の成長発達を促し、病気の回復、健康の保持増進を行うための援助ができる。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①小児の疾患 担当：「 」 1. 先天異常 1) ダウン症候群 2) 18トリソミー 2. 新生児の疾患 1) 新生児仮死 2) 新生児黄疸 3) 呼吸窮迫症候群 4) 新生児壊死性腸炎 3. 代謝性疾患 1) 糖尿病(1型糖尿病) 4. 内分泌疾患 1) 下垂体疾患 2) 先天性副腎過形成症 5. 免疫・アレルギー・ 1) 食物アレルギー リウマチ疾患 2) 気管支喘息(小児喘息) 6. 感染症 1) 麻疹・風疹 2) 突発性発疹症 3) 水痘・帯状疱疹 4) 手足口病 5) 咽頭結膜炎 6) 流行性耳下腺炎 7) インフルエンザ 8) ポリオ 7. 呼吸器疾患 1) かぜ症候群 2) 肺炎 8. 循環器疾患 1) 先天性心疾患 2) 川崎病 3) 乳幼児突然死症候群 9. 消化器疾患 1) 先天性の形態異常 2) 食道・胃・腸疾患 3) 腹膜・腹壁疾患 4) 肝臓・胆道疾患 5) 急性乳幼児下痢症・急性胃腸炎 10. 血液・造血器疾患・ 1) 貧血 2) 出血性疾患 悪性新生物 11. 腎・泌尿器・ 1) 糸球体腎炎(一次性・二次性) 生殖器疾患 2) ネフローゼ症候群 3) 急性腎障害 12. 神経疾患 1) 神経系の先天異常 2) 痙攣性疾患 3) 脳性麻痺 4) 筋疾患 13. 運動器疾患 1) 発育性股関節形成不全 | | | 講義 | 14 | |

| | 授 業 内 容 | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
|---|--|------|----|---|
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | 14. 精神疾患 1) 発達障害 2) 神経症圏の疾患 | 講 義 | 16 | 看護師教育の 技術項目と卒 業時の到達度 No56の内容 は、講義内で 確認する |
| | 15. 事故・外傷 1) 不慮の事故 | | | |
| | ②疾患をもつ児と家族の看護 担当：新原敏子 | | | |
| | 1. 先天異常の看護 1) ダウン症候群 2) 18トリソミー | | | |
| | 2. 新生児疾患の看護 1) 高ビリルビン血症 2) 超低出生体重児 | | | |
| | 3. 代謝性疾患の看護 1) 糖尿病(1型糖尿病) 2) アセトン血性嘔吐症 | | | |
| | 4. 内分泌疾患の看護 1) 下垂体疾患 2) 先天性副腎過形成症 | | | |
| | 5. 免疫・アレルギー・ リウマチ疾患の看護 1) 食物アレルギー 2) 気管支喘息 3) 若年性特発性関節炎 | | | |
| | 6. 感染症の看護 1) 麻疹・風疹 2) 水痘・帯状疱疹 3) 流行性耳下腺炎 4) 髄膜炎 | | | |
| | 7. 呼吸器疾患の看護 1) かぜ症候群 2) 肺炎 | | | |
| | 8. 循環器疾患の看護 1) ファロー四徴症 2) 川崎病 | | | |
| | 9. 消化器疾患の看護 1) 先天性の形態異常 2) 腸重積 | | | |
| | 10. 血液・造血器疾患・ 悪性新生物の看護 1) 輸血療法 2) 血友病 3) 白血病 | | | |
| | 11. 腎・泌尿器・ 生殖器疾患の看護 1) 糸球体腎炎 2) ネフローゼ症候群 3) 尿路感染症 | | | |
| | 12. 神経疾患の看護 1) けいれん 2) 脳性麻痺 | | | |
| 13. 運動器疾患の看護 1) 发育性股関節形成不全 2) 先天性内反足 3) 先天性筋性斜頸 4) 特発性脊柱側弯症 | | | | |
| 14. 精神疾患の看護 1) 神経症(不安) 2) 注意欠如・多動症および自閉スペクトラム症 | | | | |
| 15. 事故・外傷の看護 1) 頭部外傷 2) 誤飲・誤嚥 3) 溺水 4) 熱傷 5) 熱中症 | | | | |
| 評価方法 | 筆記試験：小児疾患（50点） 看護（50点） | | | |
| テキスト 参考図書 | 小児臨床看護各論 小児看護学2（医学書院） | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：喜多村美幸：病院に於いて医師として17年従事 有：新原敏子：病院に於いて看護師として27年従事 | | | |
| 備 考 | | | | |

| | | | | | | |
|--------------|---|--|-------|-------|------|-------|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 母性看護学 | | |
| 授業科目 | 母性看護学概論 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 釘原理加（専任教員） | | | | | |
| 授業目的 | 母性の特性を理解し、母性各期にある人を統合された存在として認識し、その対象が健全なライフサイクルを送るために必要な看護を学ぶ。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 母性概念及び母性各期の特徴と発達段階を総合的に学び、母性看護の機能と役割を理解する。 2. 母性各期の健康に影響を及ぼす諸因子を学び母性の健康維持増進に向けての母性保健活動と看護の役割を理解する。 3. 性と倫理について考えることができる。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 母性看護の基盤となる概念 | 1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達(父性とは) 3) セクシュアリティ | | 講義 | 30 | |
| | 2. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 | 1) 母性看護の歴史的変遷と現状 2) 母性看護に関する主な法律 | | | | |
| | 3. 母性看護の対象理解 | 1) 性と生殖の機能のメカニズム | | | | |
| | 4. 女性のライフステージ各期における看護 | 1) 思春期の健康と看護 (第二性徴、心理的特徴、性感染症) 2) 成熟期の健康と看護 (家族計画、不妊症、人工妊娠中絶) 3) 更年期の健康と看護 (ホルモンの変化と閉経、骨粗鬆症の予防) | | | | |
| | 5. リプロダクティブヘルツ／ライツ | 1) リプロダクティブヘルツ／ライツとは 2) リプロダクティブヘルツ／ライツの課題 | | | | |
| 評価方法 | 筆記試験：(70点) 課題レポート (30点) | | | | | |
| テキスト 参考図書 | 母性看護学概論 母性看護学 1 (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会) | | | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：病院に於いて助産師として8年従事 | | | | | |
| 備 考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------|--|----|-------|-------|------|--|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 母性看護学 | | |
| 授業科目 | 母性看護学方法論 I | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 関 絹代 (病院助産師) 古賀由紀 (病院助産師) | | | | | |
| 授業目的 | 母性の特性を理解し、母性各期にある人を統合された存在として認識し、その対象が健全なライフサイクルを送るために必要な看護を学ぶ。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 妊娠期・分娩期・産褥期の正常経過を理解し、各期に応じた看護を学ぶ。 2. 新生児期の経過を理解し、看護を学ぶ。 3. 健全な家族形成への援助方法を理解する。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①妊娠期・分娩期の正常な経過と看護 担当：関 絹代 1. 妊娠期における看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 妊娠期の身体的特性 2) 妊娠期の心理・社会的特性 3) 妊婦と胎児のアセスメント 4) 妊婦と家族の看護 2. 分娩期における看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 分娩の要素 2) 分娩の経過 3) 産婦・胎児、家族のアセスメント 4) 分娩期の看護の実際 | | | 講義 | 12 | 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 No.1 No.3 No.4 No.7 No.10 No.13 No.28 No.29 No.50 No.51 No.52 No.62 No.65 No.70 上記の内容に関しては演習の中で確認する |
| | ②新生児期・産褥期の正常な経過と看護・看護技術 担当：古賀由紀 1. 産褥期における看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 産褥経過 2) 褥婦のアセスメント 3) 褥婦と家族の看護 4) 施設退院後の看護 2. 新生児期における看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 新生児の生理 2) 新生児のアセスメント 3) 新生児の看護 3. 母性看護技術演習 <ul style="list-style-type: none"> 1) レオポルド触診法 2) 産褥子宮の測定 3) 乳管開通法 4) 沐浴 5) 体温測定 6) 身長・体重測定 7) 児の抱き方 8) 綿棒浣腸 9) 授乳、排気の方法 10) 胎盤計測 11) 保育器の取り扱い | | | 講義 | 18 | |
| | | | 演習 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験・出欠席状況：妊娠・分娩 (50点) 新生児・産褥 (50点) | | | | | |
| テキスト 参考図書 | 母性看護学各論 母性看護学 2 (医学書院) | | | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：関 絹代：病院に於いて助産師として6年従事 有：古賀由紀：病院に於いて助産師として31年従事 | | | | | |
| 備 考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|----|-------|-------|------|---|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 精神看護学 | | |
| 授業科目 | 精神看護学概論 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 小山みどり（専任教員） 中島 薫（臨床心理士） | | | | | |
| 授業目的 | ライフサイクルにおける、心の発達と健康及び、精神保健活動と看護の役割を理解し、精神を病む人に対する看護について学ぶ。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. すべてのライフサイクルにおける心の発達と健康の概念を学び、心の健康と精神看護の役割を理解する。 2. 精神保健活動の意義と特徴を理解する。 3. 精神を病む人との人間関係を円滑にするための知識と、その活用方法を理解する。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 担当：小山みどり 1. 精神科看護とは 1) 精神科看護学とは何か 2) 「心のケア」と日本社会 3) ストレス・自己分析 2. 精神保健の考え方 1) 精神の健康とは 2) 心身健康に及ぼすストレスの影響 3) 精神障害とは 3. 心のはたらきと人格の形成 1) 心のはたらき (1)意識と認知機能 (2)ピアジェの発生的認識論 2) 心のしくみと人格の発達 (1)発達エリクソン漸成的発達理論 (2)ボウルビーの愛着理論 4. 関係の中の人間 1) システムとしての人間関係 2) 全体としての家族 3) 人間と集団 5. 社会の中の精神障害 1) 精神障害と治療の歴史 2) 日本における精神医学・精神医療の流れ 3) 相馬事件 4) 入院医療中心から地域生活中心へ 5) 精神障害と社会学 6) 精神障害と法制度 7) おもな精神保健医療福祉対策とその動向 8) DVD 「パッチ・アダムス」 6. ケアの人間関係 1) ケアについて 2) 関係をアセスメントする 3) 安全を守る 4) プロセスレコードとは | | | 講義 | 28 | すでに学んだ学習内容を想起し、精神看護学の知識を深める学習にする 定期的なスケールを用いて自分のストレス度を知り、精神(心)の健康を維持するための方法を獲得し、ストレス対処能力を身につける すべてのライフサイクルにおける心の発達と健康の概念を学ぶ |
| | 担当：中島 薫 1. 認知行動療法 | | | 講義 | 2 | |
| 評価方法 | 筆記試験（95点） 認知行動療法 出席点（5点） | | | | | |
| テキスト参考図書 | 精神看護の基礎 精神看護学1（医学書院） 精神看護の展開 精神看護学2（医学書院） | | | | | |
| 実務歴有・無 | 有：小山みどり：病院に於いて看護師として25年従事 有：中島 薫：病院に於いて心理士として20年従事 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|------|-------|------|------|-------|
| 科目区分 | 専門分野 | 教育内容 | 精神看護学 | | | |
| 授業科目 | 精神看護学方法論 I | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 1 年次 | |
| 担当教員 | 國芳浩平（病院院長） 榎 静香（病院看護師） | | | | | |
| 授業目的 | ライフサイクルにおける、心の発達と健康及び、精神保健活動と看護の役割を理解し、精神を病む人に対する看護について学ぶ。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 精神障害についての基本的な知識を学ぶ。 2. 主な精神疾患と症状について理解する。 3. 精神疾患が日常生活に及ぼす影響について理解する。 4. 精神科における治療・検査とその特殊性について理解する。 5. 精神科看護における対象の理解および、看護の特徴・看護方法について理解する。 6. 精神を病む人の状態に応じた看護を理解する。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①精神疾患 担当：國芳浩平（病院医師） 1. 精神症状と状態像 1) 思考 2) 感情 3) 意欲 4) 知覚 5) 意識 6) 記憶 2. 精神障害の診断と分類 1) 統合失調症 2) 気分障害 3) 神経症状・ストレス関連性 4) 身体表現性障害 5) パーソナリティ障害 6) アルコール依存 7) てんかん 3. 治療 1) 薬物療法・電気ショック療法 2) 精神療法（心理療法） 3) 行動療法・活動療法 4) 社会療法・環境療法 ②精神疾患の看護 担当：榎 静香 1. ケアの人間関係 1) ケアの原則 2) ケアの方法 3) 関係のアセスメント 4) チームのダイナミクス 2. 回復を支援する 1) 回復の意味 2) リカバリーについて 3. 地域におけるケアと支援 1) 地域における生活支援の方法 2) 地域におけるケアの方法と実際 4. 入院治療の意味 1) 治療の器としての病院・病棟 2) 入院中の観察とアセスメント 3) ケアの方向性 4) 退院に向けての支援と実際 5. 身体をケアする 1) 精神科における身体のケア 2) 精神科の治療に伴うケア 3) 身体合併症のアセスメントとケア 4) 精神科における終末期ケア 6. 安全をまもる 1) リスクマネジメントの考え方と方法 2) 緊急事態と支援 7. 医療の場におけるメンタルヘルスと看護 1) 身体疾患を持つ患者のメンタルヘルス 2) リエゾン精神看護について 3) 看護師のメンタルヘルスについて | | | 講義 | 14 | |
| 評価方法 | 筆記試験：疾患（50点） 看護（50点） | | | | | |
| テキスト参考図書 | 精神看護の基礎 精神看護学 1（医学書院） 精神看護の展開 精神看護学 2（医学書院） | | | | | |
| 実務歴有・無 | 有：國芳浩平：病院に於いて医師として20年従事 有：榎 静香：病院に於いて看護師として10年従事 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|--|--------|----------|------|------------------------------------|
| 科目区分 | 基礎分野 | | 教育内容 | 科学的思考の基盤 | | |
| 授業科目 | 統計学 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 1 5 時間 | 開講時期 | 2 年次 | |
| 担当教員 | 山田和敏（大学特任教授） | | | | | |
| 授業目的 | 統計学の基礎知識を学び、集団の状態を数量的に把握し分析することが、科学的な思考の基本となることを理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の健康の指標となる保健領域の統計的見方が理解できる。 2. 収集したデータ（あるいは作成したデータ）の特徴を抽出できる。 3. 統計データから母数を推計できる。 4. 推計した母数の値の信頼精度を判断する。 5. 情報科学の基礎的理論や、その技術的側面であるコンピューターに関する基礎的知識が分かり、看護情報の処理、判断に活用できる。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 統計学入門 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 統計学とは 2) 医学・看護学・健康科学の統計学 3) 統計学におけるものの考え方 4) 統計学学習の意義 5) 健康指標 | | 講義 | 15 | 統計に慣れ、親しみが持てるように、実習形式を取り入れる。 |
| | 2. 記述統計学 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 度数分布表などを利用したデータの取りまとめ方 | | | | |
| | 3. 基本統計量 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 平均、分散などの基本的な統計量の解説と使用上の注意点 | | | | |
| | 4. 統計的推定 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 収集した統計データから、代表的な母数（母平均や母分散等）を推計することを学習 | | | | 理論的な説明に偏り過ぎないように、保健統計事例を紹介しながら進める。 |
| | 5. 統計的検定 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 推計した母数の値が、統計的に意味がある値となっているのかテストする手法を学習 | | | | |
| 評価方法 | 筆記試験（100点） | | | | | |
| テキスト参考図書 | 統計学（医学書院） | | | | | |
| 実務歴有・無 | 無 | | | | | |
| 備 考 | | | | | | |

| | | | | | |
|--------------|--|------|-----------------------------|------|-------|
| 科目区分 | 基礎分野 | 教育内容 | 人間と生活・社会の理解 | | |
| 授業科目 | 看護臨床英語 | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 1 5 時間 | 開講時期 | 2 年 次 |
| 担当教員 | バクシ・チャンド (株 日本コミュニケーションサービス) | | | | |
| 授業目的 | 国際化の対応に伴う利用度の多い英語の読解力を身につけるために医学英語を学ぶ。 | | | | |
| 授業目標 | 医療現場における専門用語を知り、情報共有するために主体的かつ継続的に英語の学習に取り組む機会とする。 | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | 授 業 方 法 | 時 間 | 留 意 点 |
| | 医療・医学・看護の専門用語 1. 自己紹介・ケガに対する看護 2. 手術に関する検査と看護 3. 身体測定・バイタルサイン測定 4. くすり 5. 入院と家族 6. 検査 7. 食事 | | 講義 リスニング DVD視聴 ゲーム | 15 | |
| 評価方法 | 筆記試験 (100点) | | | | |
| テキスト 参考図書 | 適宜 講義の中で紹介 | | | | |
| 実務歴 有・無 | 無 | | | | |
| 備 考 | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------|--|---|--------|-------------|------|-------|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | | 教育内容 | 健康支援と社会保障制度 | | |
| 授業科目 | 公衆衛生学 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 1 5 時間 | 開講時期 | 2 年次 | |
| 担当教員 | 檜室美恵子（保健師） | | | | | |
| 授業目的 | 人々の健康の保持・増進、疾病予防、早期発見、早期治療、リハビリ等の包括医療の在り方を学び、組織的な環境衛生及び健康管理について理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 公衆衛生の目的を理解し、保健・医療・福祉・環境の諸分野に関する、幅広い基礎知識を学ぶ。 2. 集団の健康状態を捉えるための疫学について理解し、健康指標を知る。 3. 公衆衛生看護の活動を理解し、看護職の役割を理解する。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 公衆衛生の理念 2. 公衆衛生の活動対象 3. 公衆衛生のしくみ 4. 集団の健康を捉えるための手法 (疫学・保健統計) 5. 環境と健康 6. 感染症とその予防対策 7. 地域における公衆衛生の実践 | 1) 公衆衛生の目的 2) 世界の公衆衛生の歴史 1) 政策展開 2) 国と地方自治体の役割 3) 専門職のはたらき 1) 集団としての人々の健康をまもるための手法 2) 公衆衛生の場での疫学 1) 公衆衛生看護とは 2) 母子保健 3) 成人保健 4) 精神保健 5) 学校保健 6) 職場と健康 | 講義 | 15 | | |
| 評価方法 | 筆記試験（100点） | | | | | |
| テキスト 参考図書 | 公衆衛生 健康支援と社会保障制度2（医学書院） 国民衛生の動向（厚生労働統計協会） | | | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：市役所に於いて保健師として45年従事 | | | | | |
| 備 考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|---|--------|-------------|------|-------|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | | 教育内容 | 健康支援と社会保障制度 | | |
| 授業科目 | 関係法規 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 1 5 時間 | 開講時期 | 2 年次 | |
| 担当教員 | 中野幹子 (大学教授) | | | | | |
| 授業目的 | <p>保健・医療・福祉に関する諸制度の概要を学び、看護師にとって最も重要な保健師助産師看護師法をはじめ、衛生法規と社会保障に関する法規を理解する。また、看護職の身分や教育の制度、医療過誤などの問題も広く理解する。</p> <p>人として生きるうえで、守るべき善良な心、生命の尊厳について学び、思いやりや優しさを持ち、人の痛みが分かる、誠実で他者の人格を尊重できる態度を養う。</p> | | | | | |
| 授業目標 | <p>1. 法の概念および諸制度の概要を理解する。</p> <p>2. 保健師助産師看護師法の目的・規定内容および業務を実施する際必要な関連法規を知る。</p> <p>3. 医療職に携わる者として、知っておくべき主な関係法規を理解する。</p> | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 法の概念 | <p>1) 法の概念</p> <p>(1)法の種類</p> <p>(2)成文法と不文法</p> <p>(3)公法と私法</p> <p>(4)実体法と手続き法</p> <p>2) 法の分類</p> <p>3) 衛生に関する法律</p> <p>(1)概念・沿革・分類</p> <p>4) 厚生行政のしくみ</p> | | 講義 | 15 | |
| | 2. 医事法の理解 | <p>1) 保健師助産師看護師法</p> <p>(1)目的・定義</p> <p>(2)免許・業務・試験</p> <p>(3)学校・養成所</p> <p>(4)医療過誤・守秘義務</p> <p>(5)沿革</p> <p>2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律</p> <p>(1)目的・定義</p> <p>(2)人材確保の促進</p> <p>(3)ナースセンター</p> <p>3) 医師法</p> <p>(1)任務・免許・試験</p> <p>(2)臨床研修・業務</p> <p>4) 医療法</p> <p>(1)目的・定義</p> <p>(2)医療提供の理念</p> <p>(3)病院等の管理・人員</p> <p>(4)構造設備</p> <p>(5)診察に関する諸記録</p> <p>(6)公的医療機関・医療法人</p> <p>5) 診療放射線技師法</p> <p>6) 臨床検査技師等に関する法律</p> | | | | |

| | 授 業 内 容 | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
|--------------------------------------|---|------|----|-------|
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | 7) 理学療法士法・作業療法士法 8) 視能訓練士法・言語聴覚士法 9) 臨床工学技士法・義肢装具士法 10) 救急救命士法 11) その他 * 5～11に関する法律の (1)定義・免許 (2)試験・業務 3. 保健衛生法の理解 1) 地域保健法 (1)目的・基本方針 (2)保健所・市町村保健センター 2) 感染症の予防及び感染症の患者に 対する医療に関する法律 3) 予防接種法 4) 食品衛生法 4. 薬務法の理解 1) 薬事法 (1)目的・定義 (2)医薬品等の取扱い 2) 薬剤師法 (1)任務・免許・試験・業務 3) 毒物及び劇物取締法 5. 労働法と社会整備の理解 1) 労働基準法 2) 労働安全衛生法 3) 育児休業、介護休業等育児又は 族介護を行う労働者の福祉に關 する法律 (育児・介護休業法) 4) 個人情報の保護に関する法律 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験（100点） | | | |
| テキスト 参考図書 | 看護関係法令 健康支援と社会保障制度4（医学書院） 国民衛生の動向 | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：病院に於いて社会福祉士として19年従事 | | | |
| 備 考 | | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|----|----------------|-------------|--|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | | 教育内容 | 健康支援と社会保障制度 | |
| 授業科目 | 医療倫理 | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 1 5 時間 | 開講時期 | 2 年次 |
| 担当教員 | 木村元太郎(住職) | | | | |
| 授業目的 | 生命の尊厳について学ぶことを通じて、人として持つべき善良な心や、思いやり、優しさを育み、誠実で人の痛みに寄りそえる素直な心を養う。 | | | | |
| 授業目標 | 本講義は、生命倫理の様々な問題について、各学生がそれぞれどういう立場をとるのかを、グループまたは個人ワークを通じて考えてもらい、その立場が一体どのような理由で選択されたのかを振り返ることができる。そして自分とは異なる立場や価値観を理解し、より大きな視野から物事をとらえることで、よりよい意思決定や適切な判断ができる力を育む。 | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授業内容 | | 授業方法 | 時間 | 留意点 |
| | 1. オリエンテーション 1) グループに分かれてチーム名を決める 2) 対立する立場とその理由について 2. 血液型と性格 1) 個人ワークで内容を理解する 2) グループで話し合う 3) クラス全体で意見を共有する 【1～3の流れは以下の授業も共通】 3. 減数(減胎)手術 不妊治療と多胎のリスクについて考えてみよう 4. 出生前診断と人工妊娠中絶 胎児の健康状態と選択的中絶について考えてみよう 5. ヒト・クローンと倫理問題 クローン人間について考えてみよう 6. インフォームド・コンセント 病名告知について考えてみよう 7. 安楽死 苦痛の緩和と延命治療について考えてみよう 8. 生死の問題と仏教 仏さまのお話を聞いてみよう | | アクティブ ラーニング | 15 | 【各時間共通】 様々な問題について自分のとる立場とその理由を考えてみよう。 そして自分と違う立場の意見にも耳を傾けてその理由や背景を理解しよう。 |
| 評価方法 | リアクションペーパー (30点) チームへの貢献 (20点) 筆記試験 (50点) | | | | |
| テキスト 参考図書 | 適宜 講義の中で紹介 | | | | |
| 実務歴 有・無 | 有: 住職として27年従事のほか、他看護学校で倫理学を専門に非常勤講師として4年従事 | | | | |
| 備考 | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|---|---|-------|----------|---|-------|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 地域・在宅看護論 | | |
| 授業科目 | 療養生活を支える技術 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 2 年次 | |
| 担当教員 | 宮原文子（在宅医療介護連携室室長） 松崎里恵・酒井亜紀子・佐藤真紀（全て訪問看護師） | | | | | |
| 授業目的 | 地域で暮らす人々の多様な環境とその生活を理解し、対象の生活と健康を支えるための看護の基礎的知識を修得することができる。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 対象者が生活する場で看護を行うための心構えやコミュニケーションについて理解する。 2. 地域で生活している対象者の家族を支える援助について理解する。 3. 地域で安全に生活するために必要な対策と事故防止の方法を理解する。 4. 地域での生活を支えるために必要な看護技術について学ぶ。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 暮らしの場で看護をするための心構え 2. セルフケアを支える対話・コミュニケーション 3. 地域・在宅看護における家族を支える看護 4. 地域・在宅看護における安全を守る看護 5. 地域における暮らしを支える看護実践 | 1) 地域・在宅看護実践とは 2) 地域・在宅看護実践に欠かせない要素 1) 対象者と看護師のパートナーシップ 2) 対象者と看護師の対話・コミュニケーション 1) 家族のアセスメントのポイント 2) 家族の支援 1) 療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策 2) 地域・在宅看護実践におけるリスクマネジメント 3) 地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント 1) 療養環境調整に関する地域・在宅看護技術 2) 活動・休息に関する地域・在宅看護技術 3) 食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術 4) 排泄に関する地域・在宅看護技術 5) 清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術 6) 苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術 7) 呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術 8) 創傷管理に関する地域・在宅看護技術 9) 与薬に関する地域・在宅看護技術 | 講義 | 30 | 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 No3 No11 No19 No23 No24 No25 上記の技術は講義の中で教授する | |

| | 授 業 内 容 | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
|--------------------------------------|--|------|----|-------|
| 授 業 の 内 容 と 方 法 | 6. 地域・在宅における 時期別の看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康な時期の看護 2) 外来受診期における看護 3) 入院時の看護 4) 在宅療養準備期（退院前）の看護 5) 在宅療養移行期の看護 6) 在宅療養安定期の看護 7) 急性増悪期の看護 8) 終末期の看護 (グリーフケア含む) 9) 在宅療養終了期の看護 | | | |
| 評価方法 | 筆記試験（100点） | | | |
| テキスト 参考図書 | 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論2（医学書院） | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：宮原文子：病院・訪問看護ステーションに於いて看護師として43年従事 有：松崎里恵：病院・訪問看護ステーションに於いて看護師として37年従事 有：酒井亜紀子：病院・訪問看護ステーションに於いて看護師として30年従事 有：佐藤真紀：病院・訪問看護ステーションに於いて看護師として25年従事 | | | |
| 備 考 | | | | |

| 授業の内容と方法 | 授業内容 | 授業方法 | 時間 | 留意点 |
|--------------|---|------|----|-----|
| 評価方法 | 事例展開：成果物（50点）多職種連携：出席状況、グループワークの参加状況、レポート（50点） | | | |
| テキスト 参考図書 | 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論2（医学書院） | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：田中桂介：病院・訪問看護ステーションに於いて看護師として27年従事 有：中島由香里：病院に於いて看護師として7年従事 有：飯田浩美：病院・クリニックに於いて看護師として12年従事 | | | |
| 備考 | | | | |

| | | | | | | |
|--|--|------|-------|------|------|--|
| 科目区分 | 専門分野 | 教育内容 | 成人看護学 | | | |
| 授業科目 | がん看護 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 2 年次 | |
| 担当教員 | 友添典子（病院看護師） 池末いづみ（病院看護師） 岩橋知美（アロマセラピー協会会長） | | | | | |
| 授業目的 | がん患者の特徴を理解し、各過程における課題とがん患者及び家族がさまざまな治療の場で、生活を継続していくための支援について学ぶ。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. わが国のがんを取り巻く状況や、がんの予防と早期発見、がんの治療・療養の場の広がりについて理解することができる。 2. がん罹患した患者の特徴について理解することができる。 3. がん患者の経過による治療と看護および場の特徴を理解することができる。 4. がん患者および家族の苦悩に目を向け、緩和ケアの基本的な知識と考え方について学ぶ。 5. 代替療法の一つであるアロマセラピーを通して、癒しへのアプローチの方法を学ぶ。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①がん看護 担当：友添典子 1. がん医療の現状と看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) がんを取り巻く現状 2) がんの疫学とリスク要因 3) がんの予防と早期発見 4) エビデンスと看護実践 5) 倫理的課題と対応 2. がん患者の看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) がん看護の対象と場 <ul style="list-style-type: none"> (1)がん看護の対象とその特徴 (2)がん患者の苦痛のマネジメント (3)がん患者に対する心理的・社会的サポート 3. がん治療に対する看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) がん治療における看護の重要性 2) 手術療法における看護 3) 薬物療法における看護 <ul style="list-style-type: none"> ：人体へのリスクの大きい薬剤の暴露予防策の実施 4) 放射線療法における看護 5) 造血幹細胞移植と看護 6) 臨床試験を受ける患者の看護 7) 外来がん看護 8) がん患者の療養支援 | | | 講義 | 16 | 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 No66 No67 上記の技術は講義の中で教授する |
| ②緩和ケア 担当：池末いづみ 1. 緩和ケアの現状と看護 <ul style="list-style-type: none"> 1) 緩和ケアの歴史と発展 2) 緩和ケアの理念 3) 緩和ケアの展望 2. 緩和ケアにおけるチームアプローチ 3. 緩和ケアにおける倫理的課題 | | | 講義 | 10 | | |

| | | | | | | |
|----------|--|---|--------|-------|------|--|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 小児看護学 | | |
| 授業科目 | 小児看護学方法論Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 1 5 時間 | 開講時期 | 2 年次 | |
| 担当教員 | 古一あすか（病院看護師） | | | | | |
| 授業目的 | 小児各期の特徴を理解し、小児の成長発達段階に応じた養護と健康障害をもつ児とその家族に対する看護について学ぶ。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. さまざまな健康段階にある小児および家族の特徴が理解できる。 2. 様々な健康段階にある小児の成長発達を促し、病気の回復、健康の保持増進を行うための援助ができる。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | 1. 子どもの状況(環境)に特徴づけられる看護 2. 子どもにおける疾病の経過と看護 3. 症状を示す子どもの看護 4. 検査・処置を受ける子どもの看護(小児の看護技術) | 1) 入院中の子どもと家族の看護 2) 外来における子どもと家族の看護 3) 在宅療養中の子どもと家族の看護 1) 慢性期にある子どもと家族の看護 小児慢性特定疾患治療研究事業 2) 急性期にある子どもと家族の看護 生命維持・生体機能の安定 3) 周手術期の子どもと家族の看護 小児期の手術の特徴・手術の決定と承諾・プレパレーション 4) 終末期にある子どもと家族の看護 子どもの生命・死のとりえ方 1) 一般状態 2) 痛み 3) 呼吸・循環器系の症状 4) 意識障害・痙攣 5) 発熱 6) 消化器症状 7) 水分・電解質異常 8) 血液系 9) 発疹 10) 黄疸 | | 講義 | 15 | |
| | | | | 演習 | | 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 No1 No31 No50 No51 No56 上記の技術は演習の中で確認する No4 No38 No40 No43 上記の技術は演習の中で教授する |
| 評価方法 | 筆記試験（100点） | | | | | |
| テキスト参考図書 | 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学1（医学書院） | | | | | |
| 実務歴有・無 | 有：病院に於いて看護師として9年従事 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|----------|--|--|--------|-----------------------|------|-----|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 精神看護学 | | |
| 授業科目 | 精神看護学方法論Ⅱ | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 1 5 時間 | 開講時期 | 2 年次 | |
| 担当教員 | 小山みどり（専任教員：看護師） | | | | | |
| 授業目的 | ライフサイクルにおける、心の発達と健康及び、精神保健活動と看護の役割を理解し、精神を病む人に対する看護について学ぶ。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 事例を用いた看護過程を展開することで、対象を一人の人間として捉え、援助の方法を考えることができる。 2. プロセスレコードを活用し、自己洞察する方法を理解し、コミュニケーション技術を学ぶ。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留意点 |
| | 1. 看護過程の展開と実際 | 1) 事例紹介 (1)幻覚・妄想状態の患者の看護 (2)うつ症状患者の看護 2) 記録用紙の記入方法・提出期限 3) グループワークの方法について 4) 情報共有の方法・実際 5) 全体での事例展開の情報共有・発表会 | | 講義 課題提出 グループワーク | 15 | |
| 評価方法 | 課題レポート(80点) グループ評価 (20点) | | | | | |
| テキスト参考図書 | 精神看護の展開 精神看護学2 (医学書院) | | | | | |
| 実務歴有・無 | 有：病院に於いて看護師として25年従事 | | | | | |
| 備考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------|---|----|-------|----------|------|-----------------------------|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 看護の統合と実践 | | |
| 授業科目 | 災害看護 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 2 年次 | |
| 担当教員 | 赤星裕美 (病院看護師) 江藤武夫 (防災士) 下川知美 (教務主任) | | | | | |
| 授業目的 | 災害看護の基礎的な知識および災害発生時の情報伝達や支援の仕組みを理解し、災害時に必要な看護技術を学ぶことで、災害看護に関する全体像を理解する。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 災害及び災害看護に関する基礎的知識を理解する。 2. 災害発生時の社会の対応やしきみ、個人の備えがわかる。 3. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解する。 4. 災害時に看護が果たす役割、災害各期における看護師支援活動を体験的に習得する。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①災害看護 担当：赤星裕美 1. 看護とグローバル化した社会 2. 災害及び災害看護に関する基礎知識 3. 地震災害看護の展開 ②災害時の技術 担当：江藤武夫 災害時における看護が果たす役割 ③BLS 担当：下川知美 | | | 講義 | 20 | 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度 No.36 |
| | 1) 看護職に求められるグローバルな視点 2) 災害看護の歩み 3) 災害医療の基礎知識 災害の定義 災害の種類と健康被害 災害医療の特徴 4) 災害看護の基礎知識 災害看護の定義 災害看護の特徴と看護活動 災害看護活動に必要な情報 5) 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 急性期 亜急性期 慢性期 復興期 静穏期 6) 被災者特性に応じた災害看護の展開 7) 災害とところのケア 8) 発生直後から出動まで 9) 急性期の看護 10) 亜急性期の看護 11) 慢性期・復興期の看護 | | | | | |
| | 1) 災害時に必要な技術 2) BLS (救命講習会) | | | 演習 | 6 | |
| | | | 演習 | 4 | | |
| 評価方法 | ①筆記試験 (70点) ②出席点 (20点) ③出席点 (10点) | | | | | |
| テキスト 参考図書 | 災害看護 看護の統合と実践3 (医学書院) | | | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：赤星裕美：病院に於いて看護師として16年従事 (救急看護認定看護師として7年) 有：江藤武夫：防災士会支部に於いて防災士として11年従事 有：下川知美病院において看護師として7年従事 | | | | | |
| 備 考 | | | | | | |

| | | | | | | |
|--------------|--|----|-------|----------|------|-------|
| 科目区分 | 専門分野 | | 教育内容 | 看護の統合と実践 | | |
| 授業科目 | 看護の探求 | | | | | |
| 単位数 | 1 単位 | 時間 | 30 時間 | 開講時期 | 2 年次 | |
| 担当教員 | 下川知美（教務主任） 飯田浩美（専任教員） | | | | | |
| 授業目的 | 1. 看護研究の目的と意義及び研究課程の概要を学ぶ。 2. ケーススタディを通して研究の基礎的態度を身につけ、自己の看護観を深め、自己研鑽する能力を養う。 | | | | | |
| 授業目標 | 1. 研究とは何かを理解し、研究の種類を述べることができる。 2. 人を対象とする研究における倫理について学ぶ。 3. 看護研究の目的、意義が理解できる。 4. 看護研究の進め方が理解できる。 5. 臨地実習を通してのケーススタディをまとめ、発表できる。 | | | | | |
| 授業の内容と方法 | 授 業 内 容 | | | 授業方法 | 時間 | 留 意 点 |
| | ①看護研究 担当：下川知美 1. 看護研究とは 1) 看護研究とは何か 2) なぜ看護研究を学ぶのか 2. 看護研究のはじめ方 1) リサーチクエスションとは 2) リサーチクエスション決定までのプロセス 3. 情報の探索と吟味 文献レビューとその方法 1) 情報と科学的根拠 2) 文献とその種類 3) 文献検索方法 4) 文献の読み方 4. 研究における倫理的配慮 5. 研究デザイン 6. 研究計画書の作成 ②ケーススタディ 担当：飯田浩美 ケーススタディの実際 1) ケーススタディとは 2) 抄録作成 3) 発表会 | | | 講義 | 12 | |
| | | | | 講義 演習 | 18 | |
| 評価方法 | 筆記試験：看護研究（40点） ケーススタディ（60点） | | | | | |
| テキスト 参考図書 | 看護研究（医学書院） | | | | | |
| 実務歴 有・無 | 有：下川知美：病院に於いて看護師として7年従事 有：飯田浩美：病院・クリニックに於いて看護師として12年従事 | | | | | |
| | | | | | | |